

# 木の駅プロジェクト ～山の恵みと自治を再生する～

バイオマス産業社会ネットワーク第140回研究会 2014.10.30



- 矢作川水系森林ボランティア協議会  
「森の健康診断」
- 山里文化研究所「聞き書き塾」
- 夕立山森林塾「木の駅pjt」
- 鳥取県地域マネージャー
- 地域再生機構 木の駅アドバイザー
- 根羽村地域再生マネージャー

丹羽健司

- ◆ 「逆ザヤありきで寄付集め、事務局はボランティアで四苦八苦、アホウカタワケでなきやあこんな間尺に合わんことはやっとなれん」と木の駅実行委員長がぼやく。それでもやめない。続けるために昼は志～材搬出に汗を流し、夜は実行委員会で額を寄せ合い知恵を絞る。これまで、効率と成果に追われ熾烈なグローバル経済の荒波に揉まれてきた中高年たちが、それとは対極にあったはずの「ゼニカネやない」世界に心地よく身を置く。

- ◆ 林地残材を地域商品券で買い取るだけの仕組みだと思っていたのがどんどん変わっていく。多様な人材が実行委員会に集い、糠床をかき混ぜるように議論を重ねるうちにふと名(迷?)案が浮かぶ。あれもできる、これもできそうだ。山のことから商店のこと、通貨を作ることまで手掛けるうちに、「この村もまんざらでもないな」とつぶやき始める。



# 「森の健診」10年の輪



森の健康診断への参加経験を聞かれ、ほとんどの人が挙手し盛り上がった報告会―豊田市のJAあいち豊田本店

## 延べ2300人参加 ■ 40都道府県に手法拡大

矢作川流域のボランティアによる森の健康診断運動10年の軌跡を振り返る集会在26日、豊田市で開かれた。運動では、市民、研究者、行政が協力し、実際に年1回山に入って人工林の過密度合などを調べた。2005年に同市で始まり、延べ2300人が参加した。その手法は40都道府県に広がっている。

### 「区切り」さみしい

今年の調査報告会を兼ねて開いた。実行委代表の丹羽健司さん(60)が冒頭、「流域の3県7市町村で二巡した」と報告した。

第1回からかわる東大大学院の蔵治光一郎准教授が、保水力が下がった上流で山崩れが多発し、豊田市街地も5月の浸水危機だった00年の東海豪雨などをきっかけに、上流の森に関心が高まったと背景を解説した。別の研究者は、毎回200人の市民が森に入って集めたデータを生かし、間伐が進んだ実績をあげた。

この日は東京、宮城、静岡など全国から約200人が参加した。10年一区切りの目標を終え、今年で矢作川での活動は終えるため、「さみしい」という声も。ただ、森林の公益機能の回復ばかりが強調され、間伐後の用材の大半は切り捨てられていくことについて、会場から「活用できないのか」と、林業再生との関係を問う意見も出た。

(伊藤智章)



森の健康診断の様子。簡単な道具で樹木の高さを測定している―2009年6月、豊田市、実行委員会提供

智頭町山形の聞き書き集

# 恵みの山に想いを馳せる

## 書籍

そうじゃった、何にもないと思っていた村には何でもあった。ないものはこの手で作った、山からいただいたてきたけえ。ひとりて出来んことは仲間て助け合つてきた。感謝、喜び、誇り。わしらは、山の恵みと人の絆で生きてきた。忘れていたそんなことを、あの子どもが聞き書きとやらで掘り起こしてくれた。



6月19日販売開始!  
定価 1,200円

夏はトーつと向かいの山の高い所に、毎朝草刈りに行くです。朝五時ごろから、虫井神社の碎石の上の道を行って、ずつと山の上に行ったら細い道で、ものすごい山のさがい所ですが、山の上の方はシバがよつてありますけえな。

木馬きんまいう物ものに乗してな。山から木をどんどん出す。木馬知られんか。カシの木でできとつてな。丈夫にできとるけえとても堅いで。木馬はそりのようなものじゃ。

町山形の名人達人たち3人から山仕事、茸とり、山菜採り、狩猟、日本蜜蜂、こんにゃく、板餅、オーレン、など山の恵みとともにあった暮らしを話し言葉の森に書き起こしました。ここには持続可能な暮らしの知恵と技術、助け合つ暮らしのヒントが若者たちの驚きと敬意を込めてつづられています。

ウサギはもうほとんどおらんね。わしら若いときはねえ、たくさんおったですよ。今ごろ、野ウサギってちあおらんから、珍しいでしよ？野ウサギはね、ちよつと耳が短いの。

私たちが書きました！



手

- 綾木守
- 白岩繁貴
- 武田政光
- 寺谷敦雄
- 武田昭雄
- 武田静江
- 寺谷恒雄
- 田中潔
- 大呂知津子
- 高橋菊枝
- 大森正子
- 綾木一美
- 谷口渙治

聞き手

- 上原美佳
- 江本奈穂
- 島田彩花
- 谷口晋一
- 中村千尋
- 木村朋美
- 庵途美香
- 村田優美
- 伊原佳輝
- 谷朋枝
- 上瀧まりな

# お伝えしたいこと

- ◆ 自己紹介
- ◆ 日本の森と村で何が起きているのか？
- ◆ 森を知る:「森の健康診断」
- ◆ 村を知る:「山里の聞き書き」
- ◆ 森と村をつなぐ:「木の駅プロジェクト」

～心地よさの経済～

- ◆ エネルギーで暮らしを変える:薪の駅
- ◆ 村の誇りと自治の再生で森が守られる。

# いま起こっていること

## ◆ 地球上では

1日100種の生物種が絶滅

1秒間にサッカー場1面の森林が砂漠化

4秒間に1人が飢えが原因で死亡

## 日本では

1日に100人が自殺

食料自給率41%で1年に1人150kgの可食ゴミ廃棄、  
39万ヘクタールの耕作放棄地

木材自給率22%、人工林の大部分が放置林

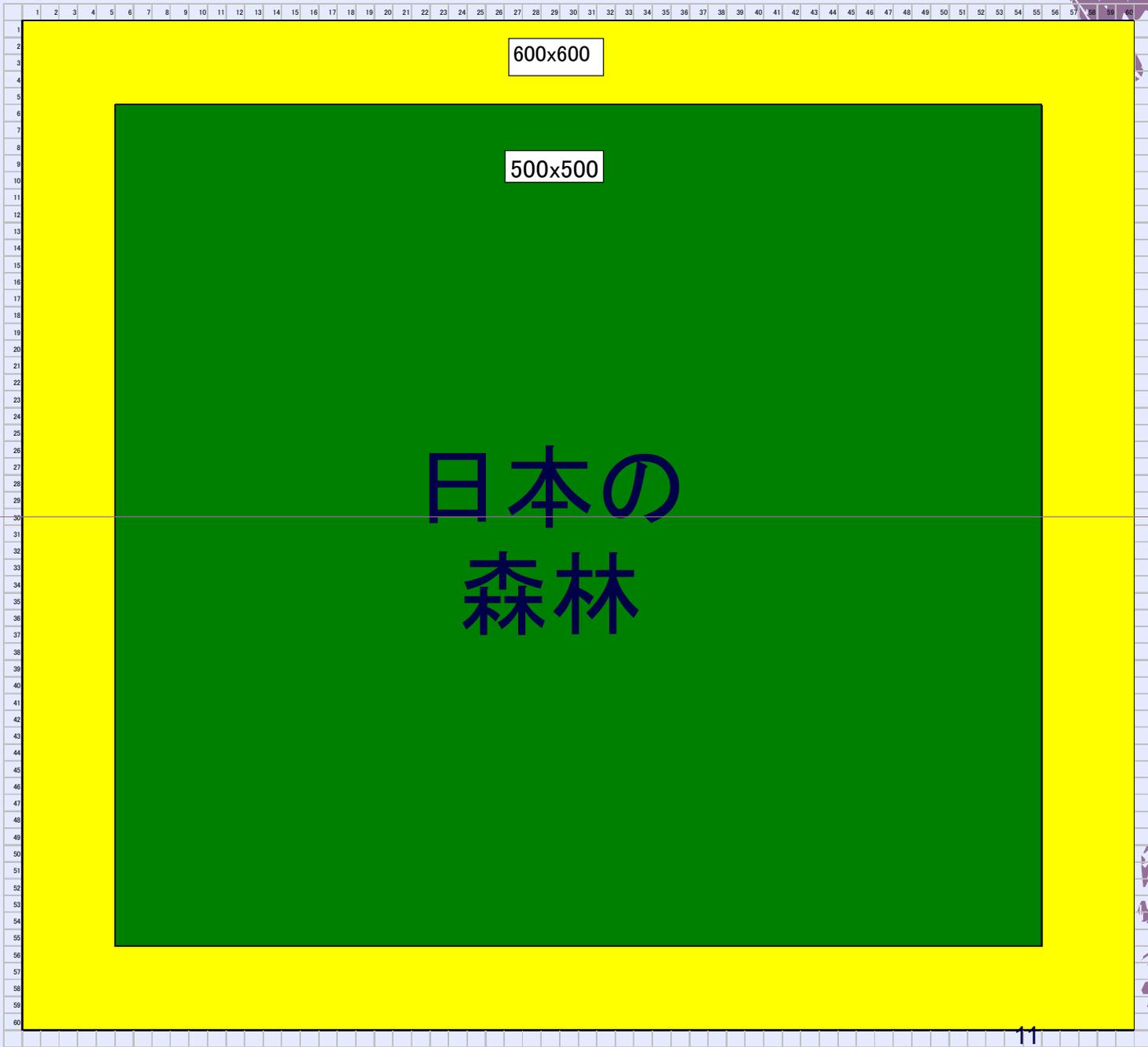
…そして、1週間に1つずつ集落が消滅している

～食も人も森も、ムラさえも棄てられようとしている～

# 木 森

600x600

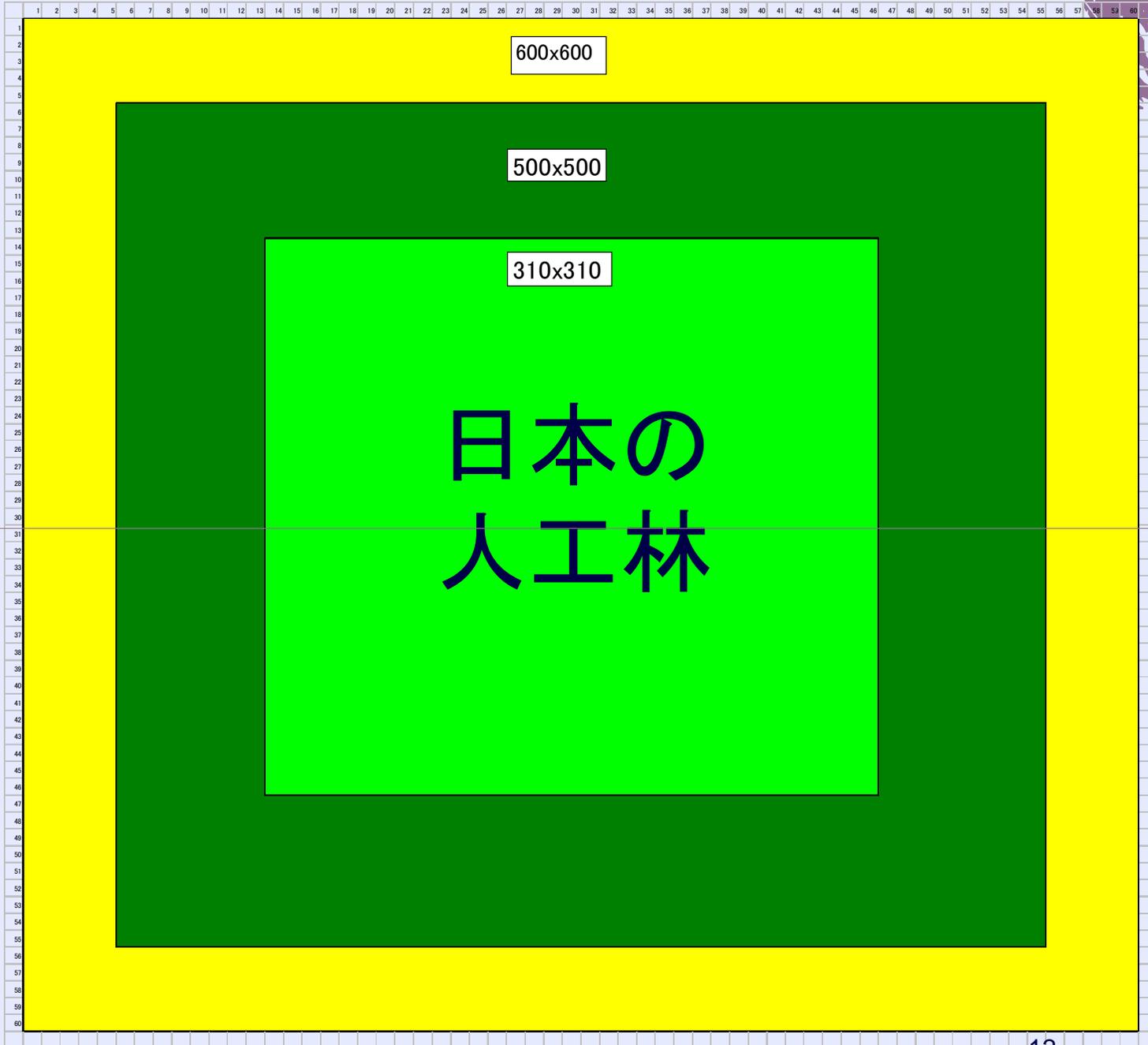
# 日本の 国土



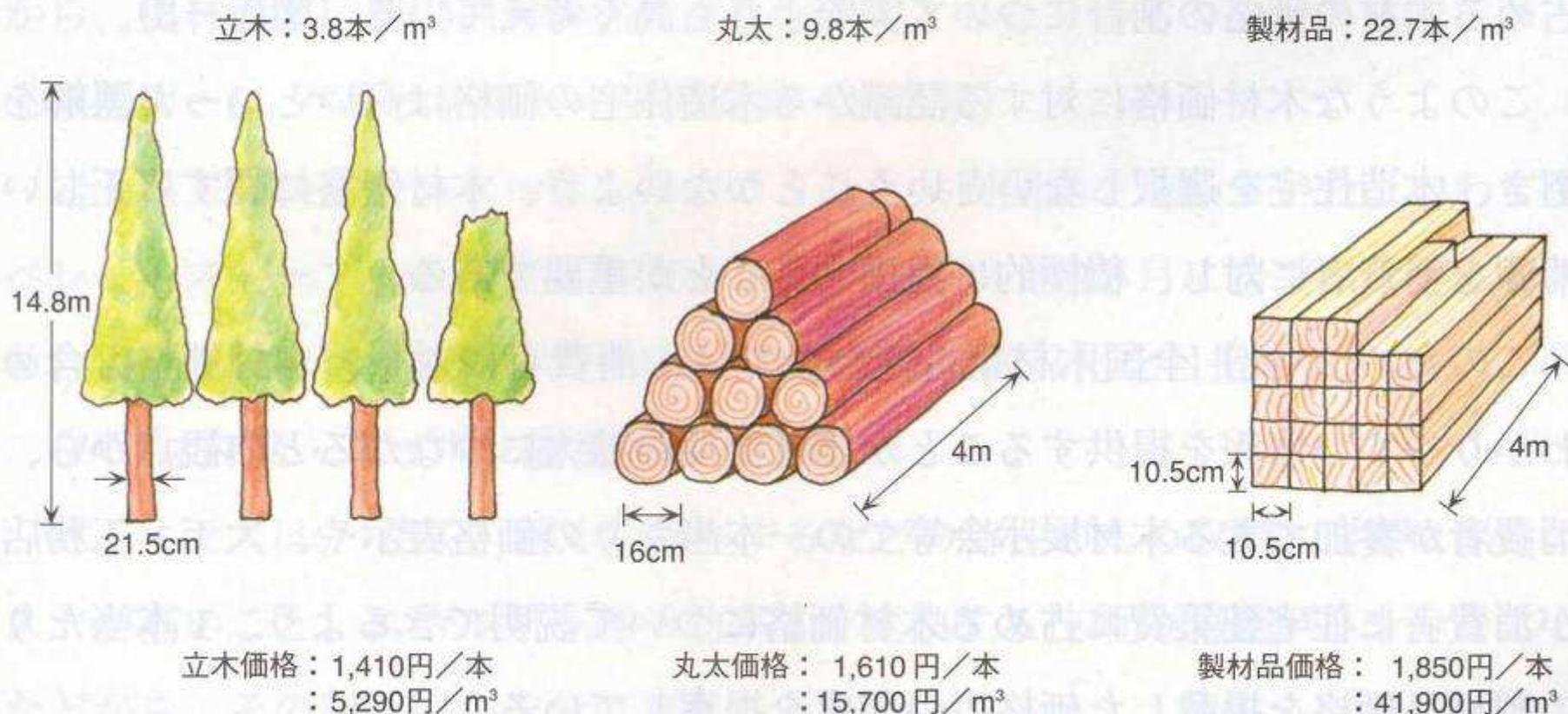
600x600

500x500

# 日本の 森林



図Ⅳ—2 スギ立木、丸太、製材品の1m<sup>3</sup>当たりの本数と一本当たりの木材価格



資料：農林水産省「木材価格」、日本不動産研究所「山林素地及び山元立木価格調」

注：1) 立木は、静岡県天城地方スギ収穫予想表（地位中）における40年生の主林木平均を用いた。

また、立木価格は、平成13年の山元立木価格（全国平均）を基に利用材積率75%として算出した。

2) 丸太は、スギ中丸太（16cm×4m）を用いた。

3) 製材品は、スギ正角（10.5cm×10.5cm×4m）を用いた。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1	輸入材	国産材	国産材	国産材							
2	輸入材	国産材	国産材	国産材							
3	輸入材	国産材	国産材	国産材	国産材						
4	輸入材	国産材	国産材	国産材	国産材						
5	輸入材	国産材	国産材	国産材	国産材						
6	輸入材	国産材	国産材	国産材	国産材						
7	輸入材	国産材	国産材	国産材	国産材						
8	輸入材	国産材	国産材	国産材	国産材						
9	輸入材	国産材	国産材	国産材	国産材						
10	輸入材	国産材	国産材	国産材	国産材						
				輸入材				国産材			

# 日本の 輸入木材

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
1	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
2	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
3	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
4	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
5	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
6	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
7	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
8	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
9	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
10	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	広葉樹年間蓄積量			人工林蓄積量					年間利用量			

日本の  
人工林の  
成長量

# 半分は紙パルプ用チップ

		用途別年間利用量									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1											
2											
3											
4			製材製品								
5	製材用丸太						チップ				
6											
7				合板用					加工材ほか		
8											
9											
10											
				国産							16

# 2000年9月 東海豪雨

8



旭町小渡付近の矢作川右岸

# 東海豪雨時、豊田市中心地の堤防は決壊寸前！

2000年

豊田スタジアム



# ダム湖を埋めた木材





# 「山がほったらかし」

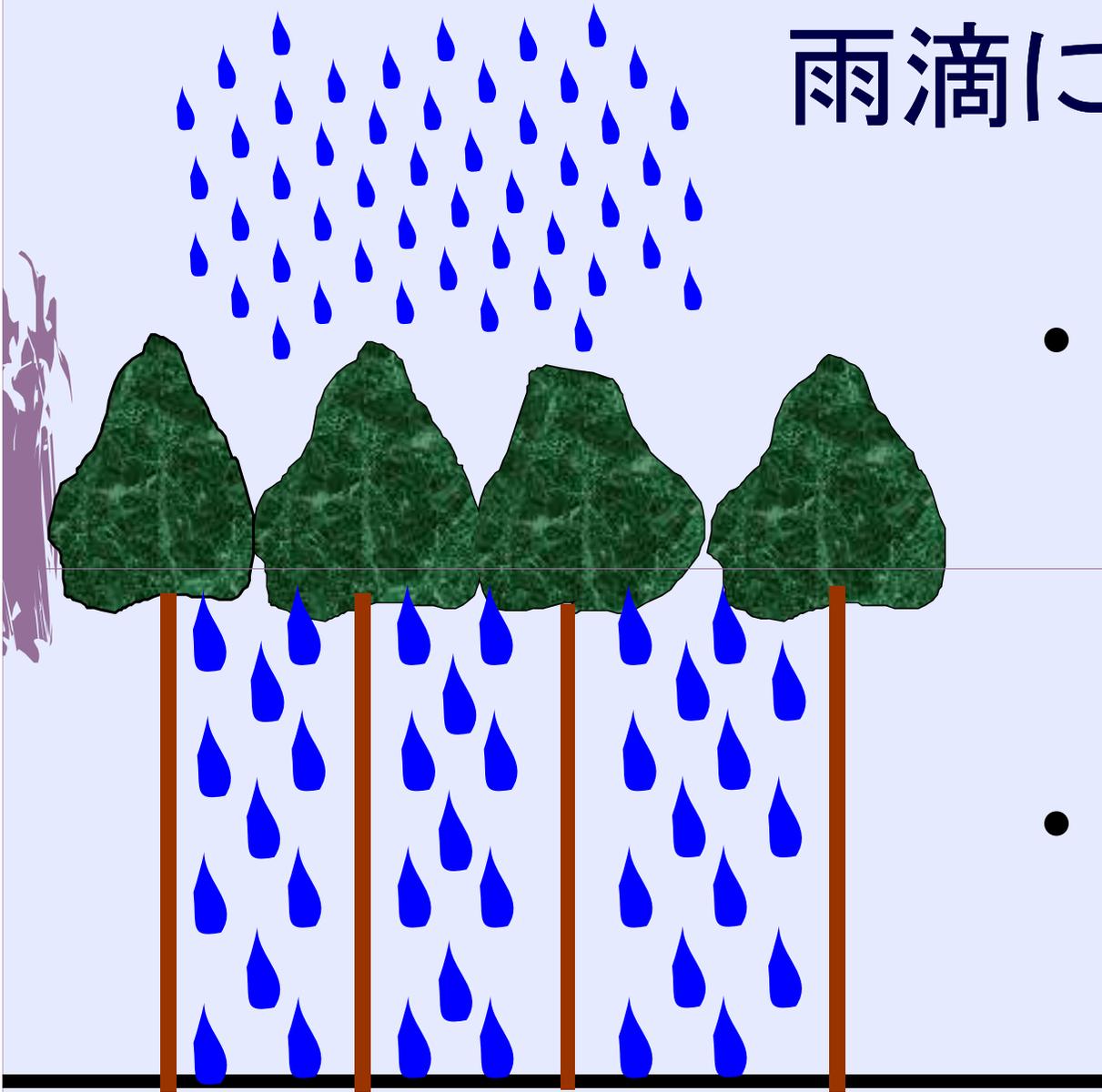




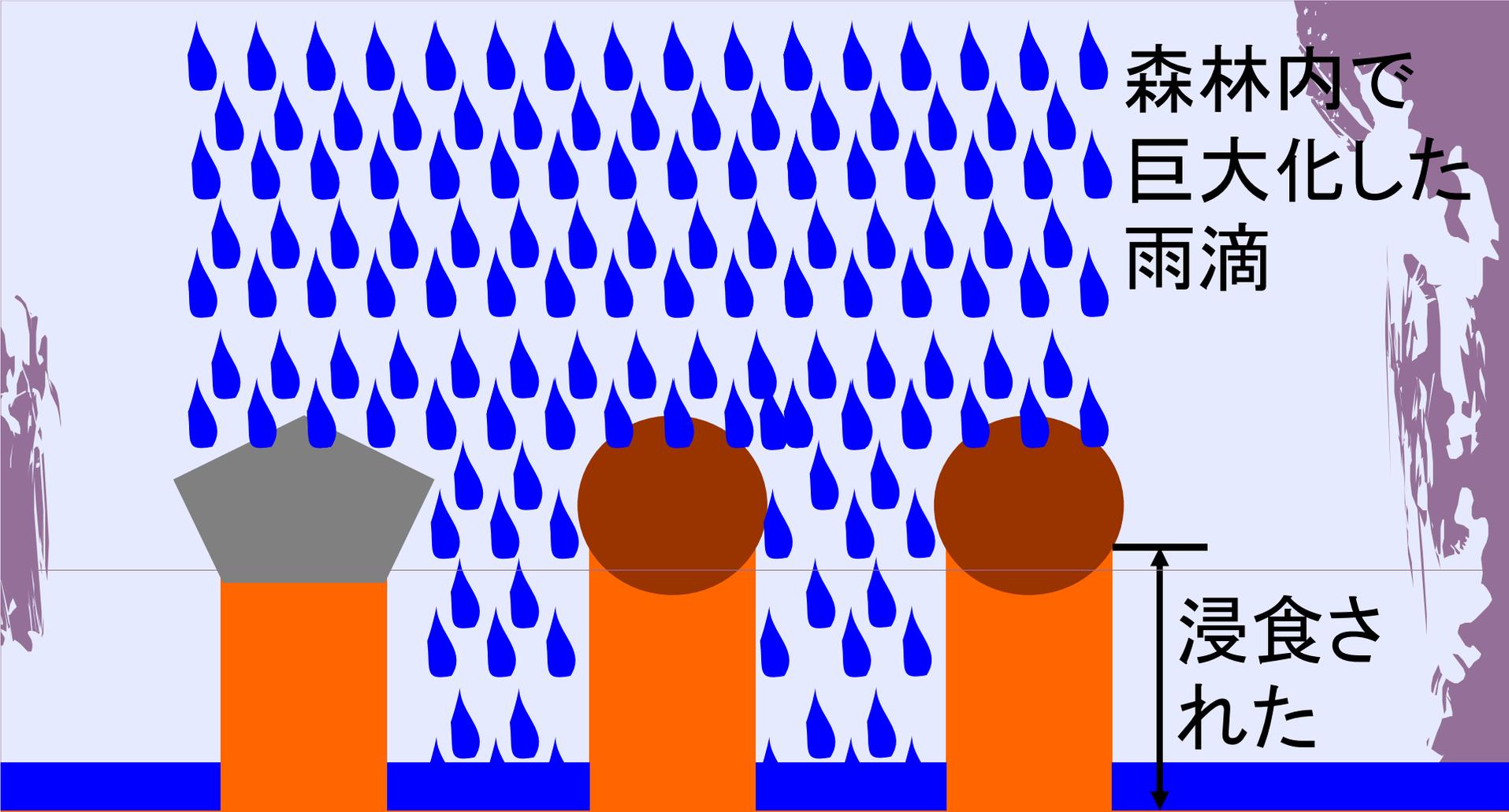
# 土人形・・・？



# 雨滴による浸食



- 林の中の方が外よりも雨滴の直径が大きく、その分衝撃エネルギーが大きい
- 直径4～5倍、エネルギー16～25倍



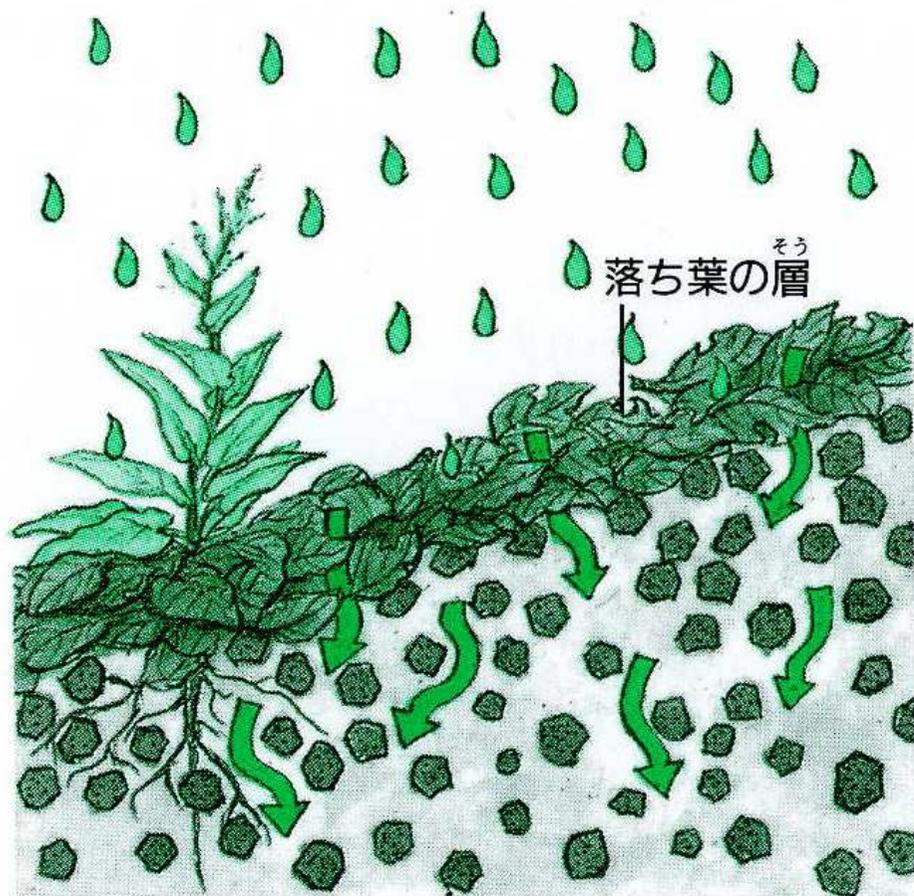
森林内で  
巨大化した  
雨滴

浸食さ  
れた

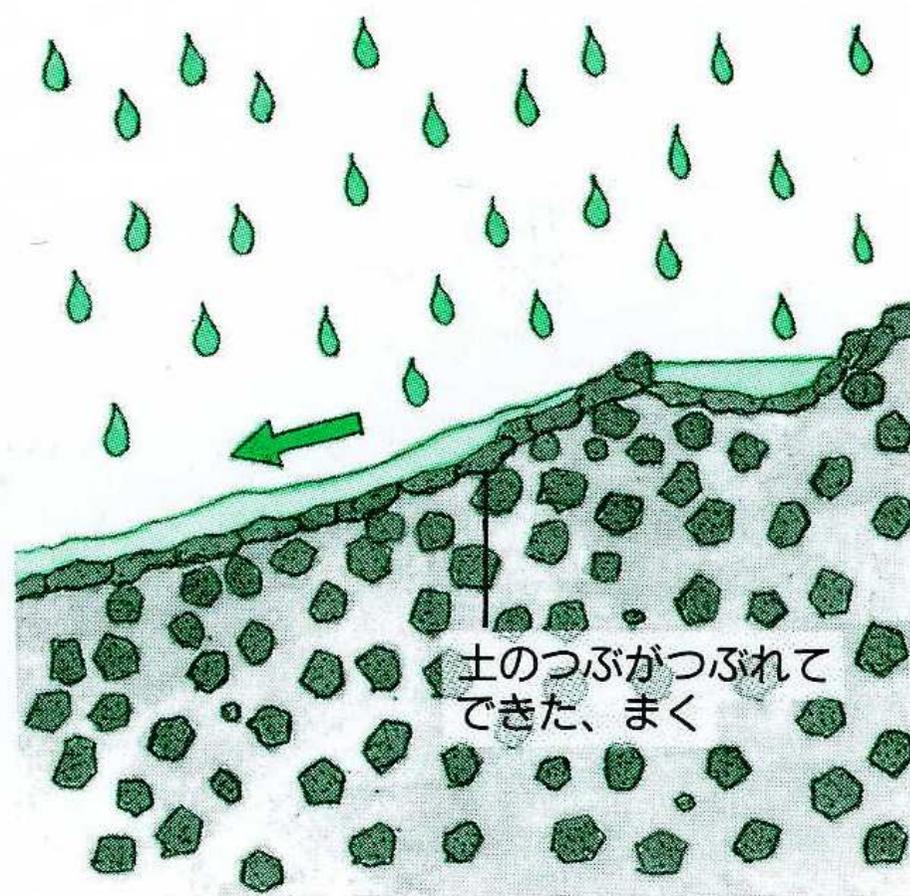
小石やヒノキの種が雨滴  
衝撃から地表面を守った

目詰まりして  
いて水が浸透  
しない

# 不健康な森では何が起きるのか



健康な森の中



不健康な森の中

# こんな山がどれくらいあるのか？

- ◆ 誰も知らない！
- ◆ じゃあ、自分たちでやろう！

# 森を知る～「森の健康診断」









## 2 調査地に到着

班ごとに地図上のメッシュの交点へ。調査する人工林はコースガイドやリーダーが下見済み。



道具持つの手伝いま～す。



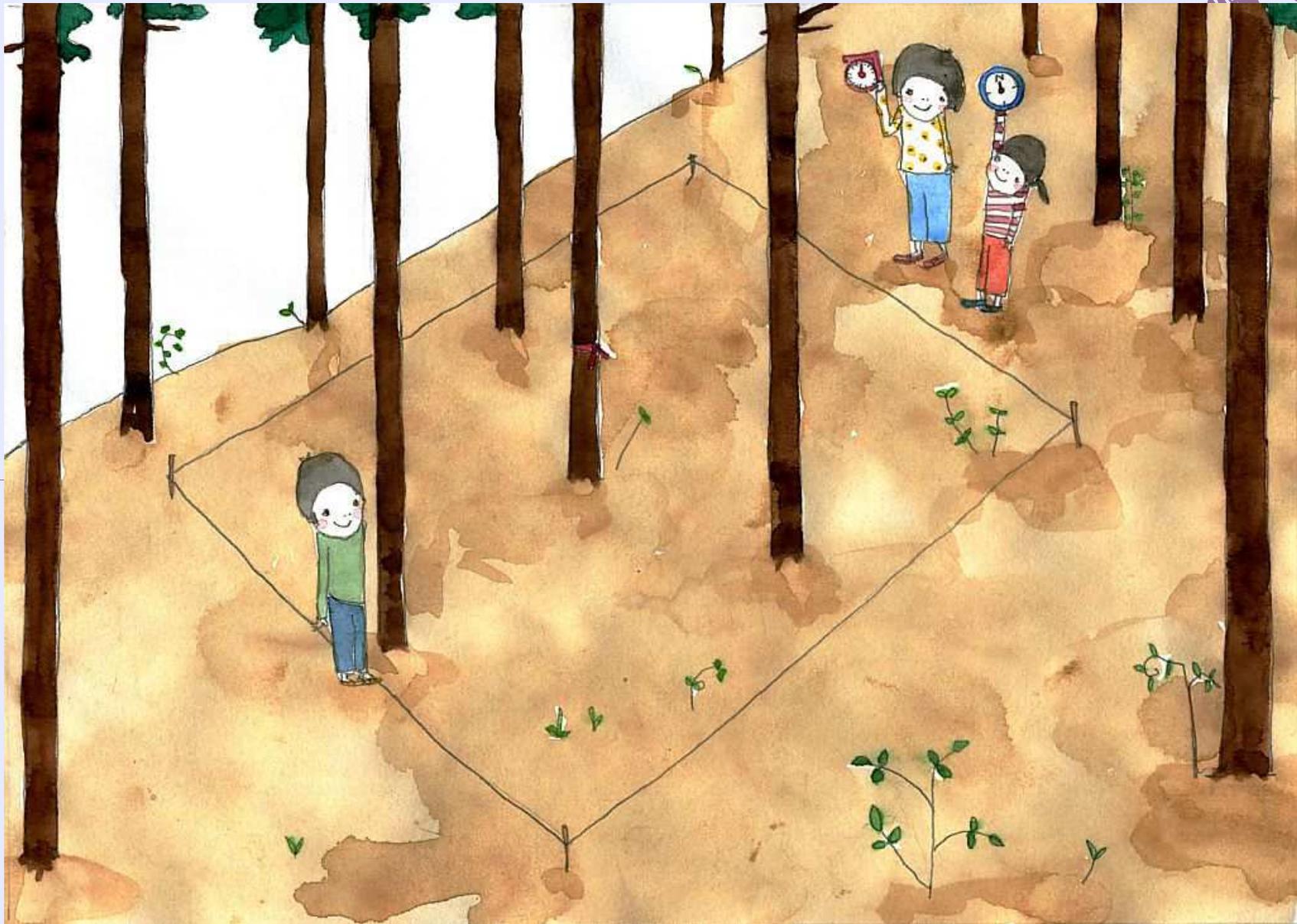
アキレス腱を伸ばして～。体操は必須。



ねえ、まだ～？ 車から遠い場合も。



林縁を避けて調査します。



### 3 調査地の立地測定



まずリーダーから道具ややり方の説明。記録係、朗読係を決めます。

中心木を決め、5×5mの枠を張ります。森林の状況の分かる写真を横から撮って、斜面の方位と傾斜を測り、土壌のようすを調べます。

傾斜に対して垂直にグサッとスコップを入れます。



ぼーっとしてるんじゃないありません。傾斜角を測るお手伝い中。



調査枠の下にいる人の目を見て傾斜計を傾け、隣にいる人が目盛りを読みます。

ここは地面がスギの落ち葉で100%覆われています。



地面の断面にものさしを当て腐植層の厚さを測ります

## 4 植生調査



1.3m以上の木があったら高さ・太さを測ります。細い木はノギスで。

「見つけた草木の葉っぱを採ってください」「意外にたくさんあるね」



シダは草として数えます。コケは数えません。

ここは林床の緑が豊かなようです。



枠の中にある植えた木（スギ・ヒノキなど）以外の植物を、  
①大きくなっている木（1.3m以上）  
②林床の草・低木（1.3m未満）  
に分けて調べます。



「同じ種類のものは取り除いて」  
あらら、全部同じに見えたり、全部違って見えたり……。難しいのになぜか楽しい。  
自然観察サポーターが尊敬される一瞬。



一緒にあそぼ！ みんな並んではい、チーズ。  
調査の重要な記録になります。



## 5 混み具合調査

100㎡の中に植えられた木（スギ・ヒノキなど）が何本あって、どれくらい生長しているか調べます。木の胸高直径をすべて測って平均直径を計算。樹高は目測、樹高計などで測ります。すべての測定が終わったら、相対幹距や林分形状比を計算して、リーダーが混み具合を解説します。



木の上側斜面から胸の高さで正しく直径を測ります。



4mの釣竿を手をいっぱい伸ばして回すと半径5.65mの円になります。これが100㎡。釣竿に当たった木の直径を測って、幹にチョークで値を書きます

## 樹高計 「尺蔵」



計算や換算表は不要で、小中学生でも簡単に計測できます。

原田父子が  
作りました



「お〜い、見えるか〜？」  
樹高を測るときも釣竿が活躍。



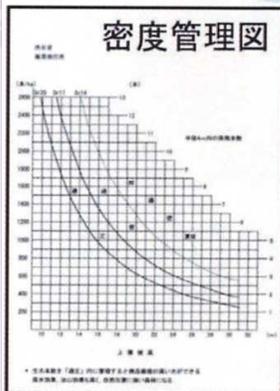
できるだけ離れて、  
梢まで釣竿の何倍あ  
るか小枝などを使っ  
て見ます。



記録係は責任重大。抜け  
中心木には色テープ。  
がないように。



終わってホッとなごやかムード。



「ここは過密。4割ぐらい  
間伐するといいでしょ  
う」測定後、リーダーが  
密度管理図を見せながら  
林の状態を解説します。

「お邪魔しまし  
た。連絡くださ  
い」山主さんに  
置き手紙。



## 植物鑑定団



調査地から持ち帰った植物を専門家に教えてもらう人気コーナー。

## 閉会式



来年もやろうね！

## ホカホカのもてなし



もう何も思い残すことはない。



地元の食材で作った五平餅や豚汁にいやされます。

※【注意】おもてなしがなくても森の健康診断はできます。

## 7 そして研究が続く

大勢で行った森の健康診断の行事の後、研究者の仕事が始まります。集まったデータを分析。研究成果を報告書にまとめ、報告会で発表します。森の健康診断の行事の参加者は、自分の調査がどのように活かされたかを知ることができます。また、10年間継続して行うことで、調査方法も改良されデータも蓄積され、研究が進みます。



必ず報告書  
を発行。

報告会で森の  
健康診断が完  
結。気づきと  
学びの連鎖の  
一つ。



研究室で続いている  
森の健康診断。



100円グッズで始める  
市民と研究者の  
愉快な森林調査

森林と流域圏の再生をめざして、  
森林ボランティア・市民・研究者の  
協働で行なう、  
手づくりの人工林調査の  
ためのガイドブック



**+**  
全国  
どこでも使える  
森の健康診断  
マニュアル付き

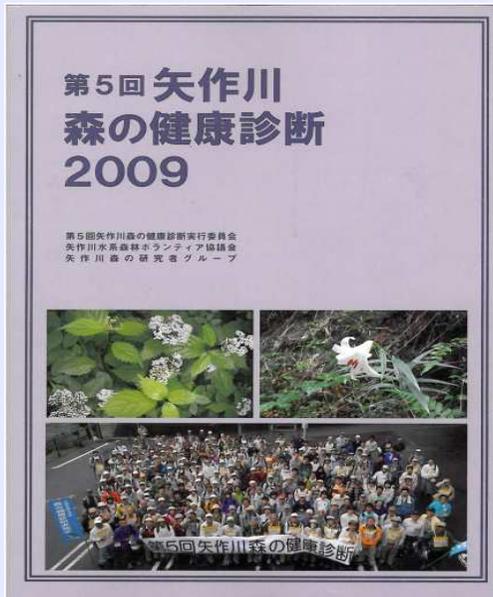
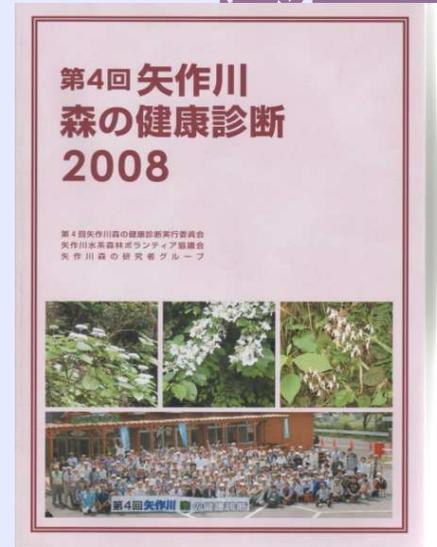
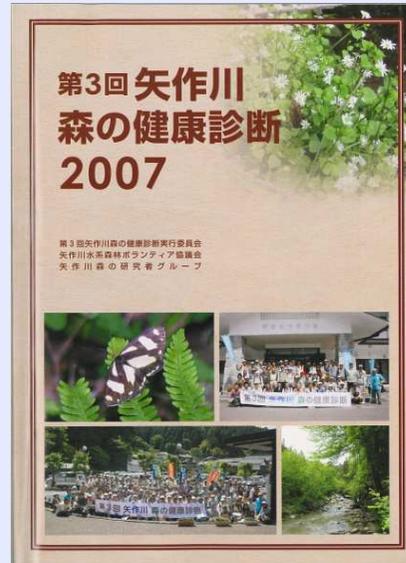
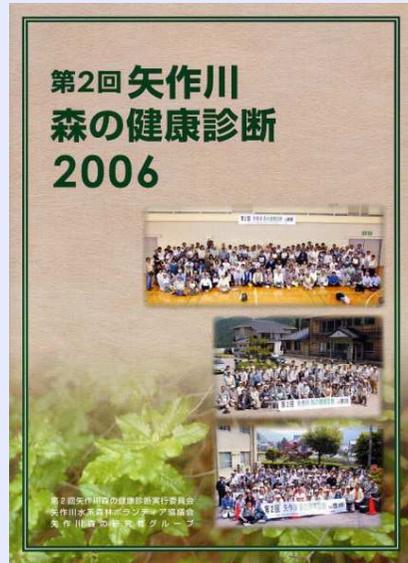
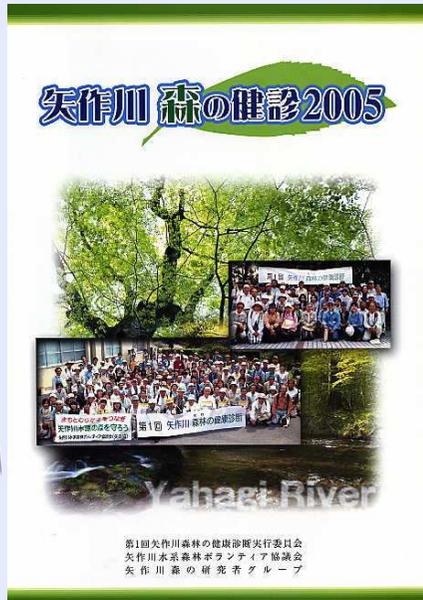
# 森の健康診断



蔵治光一郎＋  
洲崎燈子＋  
丹羽健司 編



築地書館





- 2005年調査地点
- 2006年調査地点
- 2007年調査地点
- 2008年調査地点
- 2009年調査地点
- 2010年調査地点
- 2011年調査地点
- 2012年調査地点
- 2013年調査地点
- 2005年 / 2014年調査地点

矢作川流域

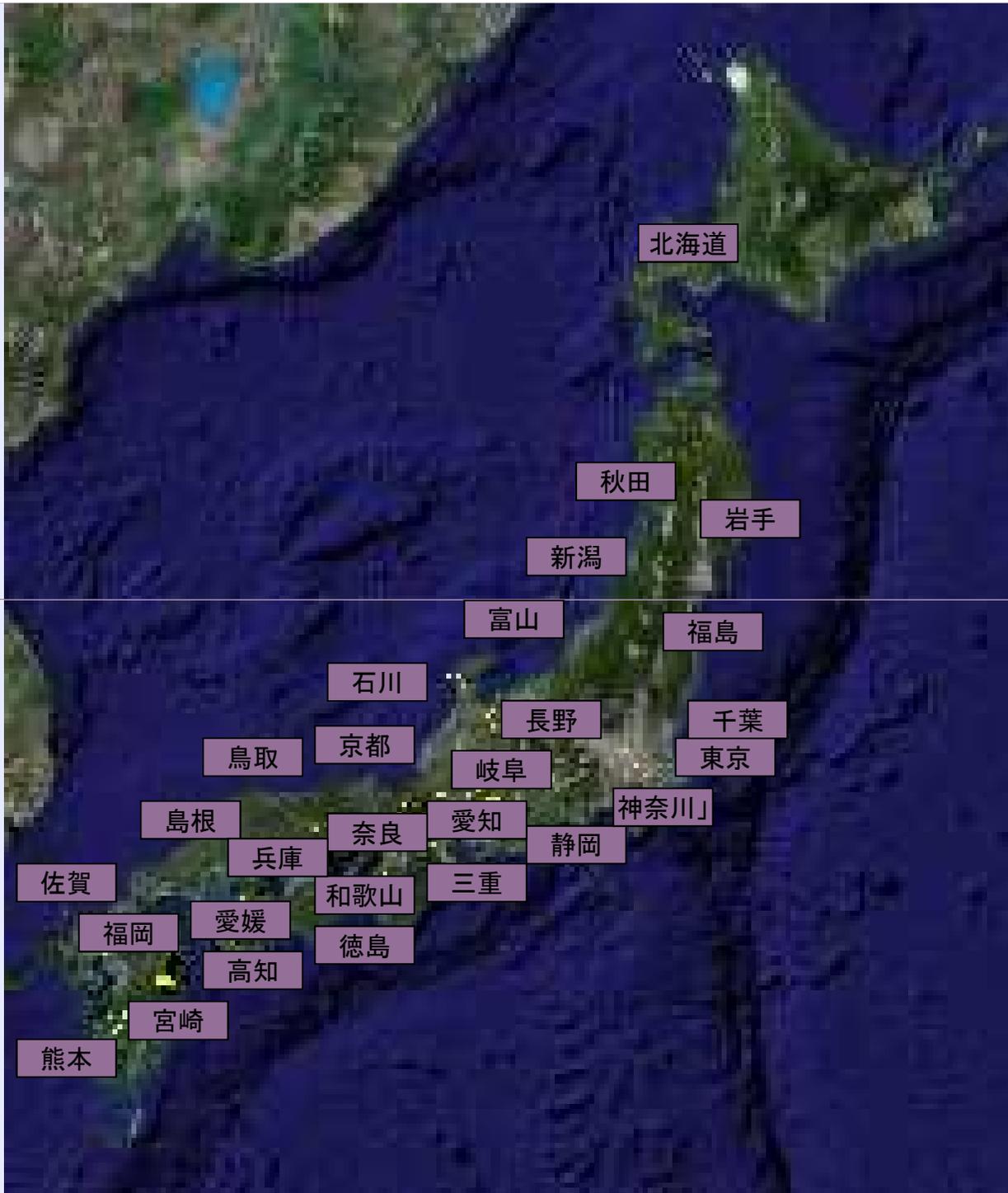
## 矢作川 森の健康診断

10年間で約  
2300人により  
3県7市町村の  
610地点を  
調査しました

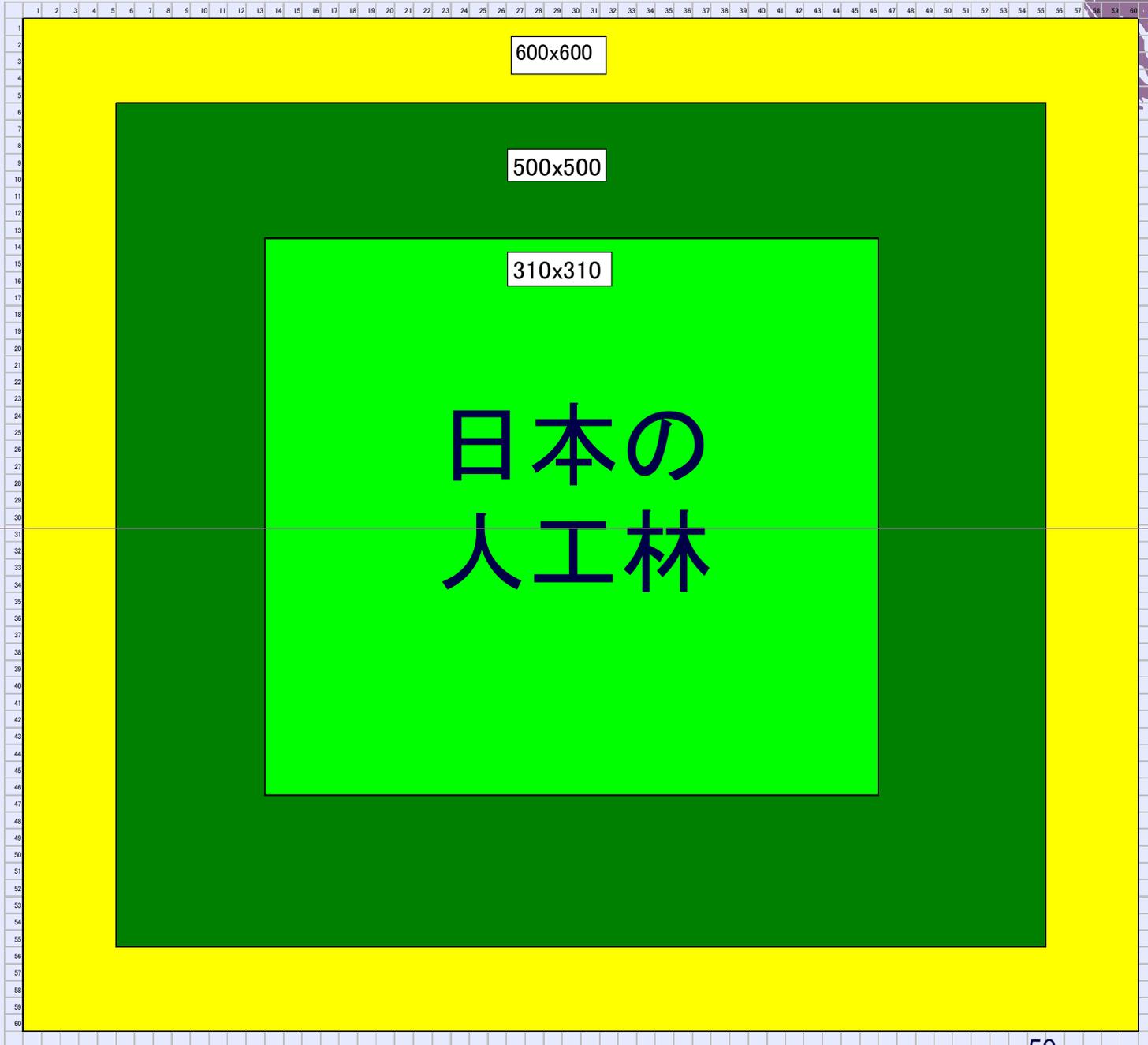


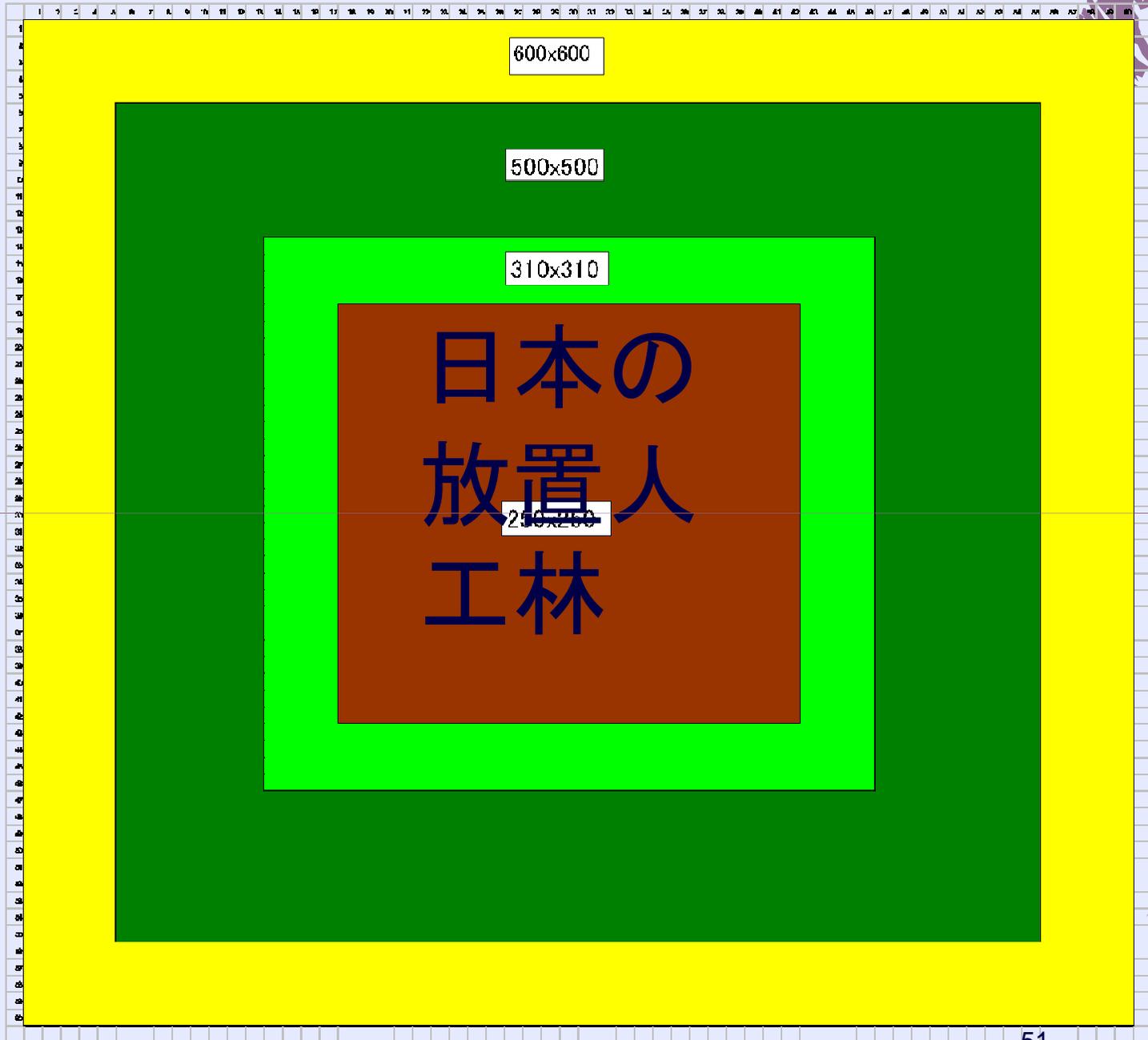


# 全国の森の健康診断



その結果・・・





# どうする

# 社説

<2010・6・27>

## 森林の再生

「再生を期待できる好機にある」。菅直人首相は所信表明演説の中でそう述べ、林業の復活を後押ししていく考えを示した。その言葉通りに実行してほしい。

首相が言うように、木材の国際的な需給変化で、林業に少し光が差し込んできた。中国が日本を抜いて世界最大の丸太輸入国になり、一方で輸出国のロシアや東南アジアが資源保護に乗り出した。いまや木材チップは広葉樹なら国産の方が安い。やり方次第で外材に対抗できる可能性が出てきたのだ。この好機を生かしたい。

地球温暖化対策で、もう一筋の光も差ししてきた。森林という豊かな国内資源をもっと生かせば、低炭素社会への転換という時代の要請にこたえる一歩にもなる。

雨が多く、気候も温暖な日本は木の成長に適している。森林の蓄積は40億立方メートルを超え、毎年8千万立方メートル

## 市場の変化を生かしたい

増えている。年間の木材需要をまかなえる規模だ。それなのに木材自給率が24%では、もったいない。

民主党政権が林業再生を唱えているのも、うなずける。簡単な小規模作業道を増やして大型機械が使えるようにし、伐採・搬出コストを大幅に下げるといふ。かつての大規模林道などと違って、実際に即した振興策だ。

先の国会で、低層公共建築を木造とする努力を義務づける法律ができた。どんどん実施して欲しい。複雑すぎる流通を簡素化することや、産地表示の明確化も大切だ。

間伐に対する公的助成も拡大するべきだ。コスト割れが障害となって間伐が進まず、森が傷んでいるからだ。

こうした政策を進める上で、国民の理解が欠かせない。まずは薄暗く鬱んだ森に入り、林業と環境の好機を知ってもらう機会を増やしたい。

生物多様性の日の6月22日には、国

連の呼びかけで世界各地で植樹が行われた。日本では市民ボランティアによる森の健康診断調査もあった。手入れ不足の人工林を体感し、調べてもらうというものだった。

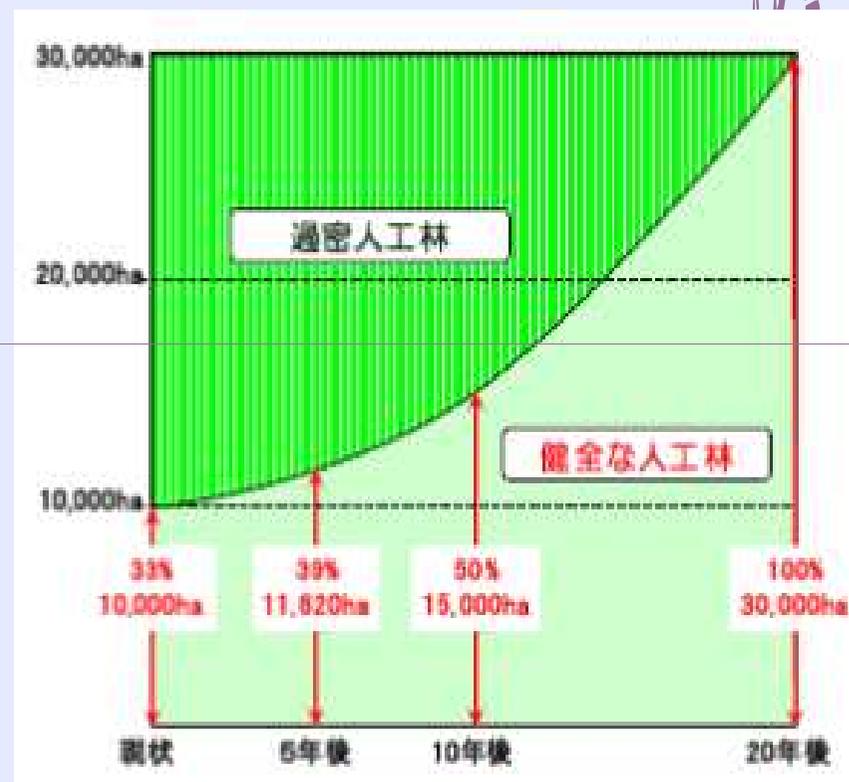
外目には美しい森も、中へ入るとまるで違う。竹のように細いスギやヒノキがびっしり生え、日が差さない。薄暗い地面には下草もなく、生き物の気配もない。荒れた森の様子に多くの人が息をのんだに違いない。

外材に押され、戦後植えた木が放置されてきた結果だ。全国1千万人の人工林の多くがこんな状態になりつつある。なんとかしないとけない。

森の健康の起りは愛知県豊田市。2000年の東海豪雨で大きな被害を受け、市民の目が上流の山へ向いた。10年で市費100億円を投じる間伐計画が進行中だ。無償で山へ入って調査した何百人もの市民とその熱意には、学ぶべきものが多い。

# 豊田市森づくり委員会

- ◆ 森づくり委員会→森づくり条例  
→森づくり構想
- ◆ ①ヨソモノパワー・シロウトパワーを活用する度量
- ◆ ②豊富で信頼できるデータ
- ◆ ③対等平等な議論と、時間を惜しまない頻繁な委員会開催
- ◆ ④議事録の蓄積と開示
- ◆ ⑤行政と市民のポテンシャル  
→これが自治！



# とよた森林学校

HOME | [講座案内](#) | [イベント案内](#) | [修了生の活動](#) | [学校だより](#) | [申込・問合せ](#)

## 講座一覧

[5～10月の講座一覧](#)  
(PDF 160KB)

[7～11月の講座一覧](#)  
(PDF 135KB)

[10～2月の講座一覧](#)  
(PDF 146KB)

## 5月～7月に始まる講座

- ・ [森林セミナー](#)
- ・ [山主森林経営講座](#)
- ・ [森林観察リーダー入門講座](#)
- ・ [矢作川源流の森ウォーキング](#)
- ・ [間伐してベンチをつくり寄付しよう](#)

## 人材育成コース 2013

森林のしくみや森の動植物、人工林の手入れの仕方など森林に関する基本的な知識や技能を体験しながら学べる講座を各種用意しています。自分に合った講座を見つけて、スキルアップしませんか。

●各講座の詳細は講座名をクリック↓

対象者	どうなりたい？	⇒ 講座名
森林所有者	所有している山の管理のしかたを知りたい	やまぬしりんけんけいえいこうざ <a href="#">山主森林経営講座</a> <b>実施中</b>
	所有している山を自分で整備したい	やまぬしじりきかんぱつこうざ <a href="#">山主自力間伐講座</a> <b>受付中</b>
限定なし	林業のプロを目指したい 間伐～出材までを体験したい	<a href="#">セミプロ林業作業 者養成講座</a> <b>受付中</b>
	放置人工林の手入れの手伝いをしたい	<a href="#">間伐ボランティア 初級講座</a> <b>受付中</b>
	森林(自然)の大切さや楽しさを広めたい	<a href="#">森林観察リーダー 入門講座</a> <b>実施中</b>

## 講座の風景



山主経営講座と  
森林観察リーダー養成講座



山主自力間伐講座



- ◆ 森の健康診断に必要なもの  
100円グッズ調査セット  
マニュアル、2万5千分の1地図  
実行委員会の開催と地域周知
- ◆ 森の健康診断の成果  
一般市民を人工林へ  
人工林への理解と応援、山村交流  
流域の森の現況データ  
データの開示による市民と行政の目覚め  
自治的な森との関わり  
ほか、たくさん！

# 軽トラとチェーンソーで晩酌を！

## 木の駅プロジェクト ～森と村をつなぐ～



# 木の駅pjの作法





不健康な放置林



木の駅プロジェクト



健康な人工林



光が入った豊かな森





Handwritten ledger table with columns for 'DATE', 'DESCRIPTION', and 'AMOUNT'.

DATE	DESCRIPTION	AMOUNT
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
31		

Handwritten notes on a pink sheet of paper, including a list of numbers and a table.

21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31

1st  
1st

1st  
1st  
1st  
1st  
1st  
1st  
1st  
1st  
1st  
1st  
1st

木の駅上石津 出荷伝票

出荷日: 23年 9月 1日

出荷者氏名: 丹羽健司

登録番号: 28

出荷者と山主が異なる場合は山主名:

コメント: 山が"かなりきれい"になりました。木の駅は素晴らしい。

番号	樹種	末口径 (cm)	長さ (cm)	本数
1	スギ	10	200	2
2	スギ	22	100	1
3	スギ	15	200	5
4	スギ	20	100	3
5	スギ	25	100	2
6	スギ	30	50	2
7				
8				

## 木の駅 nakanoho モリ券発券伝票

出荷者氏名: 鈴木直 登録番号: 001

出荷日 2011/9/7

出荷本数(本) 25

材積合計(m<sup>3</sup>) 1.50

換算金額 7500

発券枚数(枚) 7

今回繰越金額(円) 500

伝票処理者 杉組 鈴木今衛 (印)

## \* 木の駅マニユアル

「木の駅プロジェクト」は、森林を佳良な状態に整備し、林地残材を地域の発展と地球の環境のために有効に活用することを目的に実施します。これは放置材（林地残材）有効活用をとおして地域の活性化を試みるものです。

放置材搬出者に森林整備の実施者として、直接支払いをモリ券で払うという制度。放置材を実勢価格より高く買い入れることで、放置材の有効利用と、山仕事の復権を目指します。これまでハードルが高かった木材出荷を、軽トラックに積載できる2m足らずの短材でも気楽に出荷できるようにすることでより多くの方が山仕事に関わる事が出来るような仕組みを作りました。さらに、その対価を\*\*町でしか利用できない地域通貨「モリ券」で支払うことで地域の活性化を図ろうとするものです。

今回は「木の駅プロジェクト」のモデルづくりのための社会実験です。さまざまな準備不足や不手際があると思いますが、趣旨をご理解のうえご協力をお願いします。

●「木の駅」に出荷するには、以下の決まりを守ることを約束して木の駅出荷登録者として認定されます。

木の駅出荷グッズ：木の駅袋、コンベックスメジャー、チョーク、出荷伝票、ボード

【登録】「木の駅」は自伐林家を増やすことによって\*\*町の森と村を元気にしていこうとするものです。そのため、「木の駅」出荷者は\*\*町在住もしくは在勤等で、対象森林は\*\*町内に限られます。また、出荷者は個人に限られます。グループで出荷する場合でも個人登録をお願いします。出荷数量も検尺による自己申告です。このプロジェクトの成否は、地域で生きるひとり一人の名誉と信用にゆだねられています。著しく不信を招く行為があった場合は登録を抹消します。登録は「\*\*木の駅登録申請書」に必要事項を記入し、出荷者の自動車免許証とその使用する車の車検証コピーを添付してください。

## 1. 規格の約束

- ① 1年以内に伐採したもの
- ② 長さは50～200cm
- ③ 末口は5cm以上
- ④ 枝払いしてツノや枝葉がついていないようにする

\*玉切りするときに  
100, 200cmと2段階くらいに  
決めて切ると積み下ろしや検尺がラク  
チンです！（チップ屋さんは2m希望）

## 2. 出荷の約束

**安全第一です、効率を追わずゆっくりポチポチやりましょう！**

- ① 決められた場所（氏名の記された名札の前）に置く
- ② 末口（細い方）の直径（短い方で皮の内側）を1cm単位（端数切り捨て）で伝票に記入
- ③ 長さは短い方を同じく10cm単位（端数切り捨て）で伝票に記入
- ④ 山主と異なる者が出荷する場合は、山主の承諾を得なければならない  
その場合の山主への謝礼は、無償もしくは出荷額の10%を超えないこととする

## 3. モリ券交換の約束

- ① 出荷伝票に必要事項を記入し（計算不要）、「通い袋」に入れてモリ券交換所（\*\*\*\*）に預ける  
（担当者駐在時間は、\*\*曜日\*\*～\*\*時）
- ② 数日後、交換所に、前回出荷までのモリ券・発券伝票・受取伝票が入った各出荷登録者別の「伝票袋」があるので以下③の確認をしてモリ券を受け取る
- ③ モリ券枚数と発券伝票の内容を確認し、受取伝票にサインして、「伝票袋」に入れる
- ④ 繰り越しが1000円以上になれば、自動的にモリ券が発券される
- ⑤ 最終日現在の繰り越し端数は、実行委員会への寄付とさせていただきます

# 俺たちの村のことは俺たちが決められる

## 全国に広がる「木の駅」

「こんな日にヤコクツに入って、まためるいなあ。なんちやのて、スイッチを強に切り替えていのがオチさ。」愛知県東栄町の伊藤啓文さん(76歳)は、朝トラから荷下りしながら昨午の日の暮笑いに飛ばし、伊藤さんたちのグループはこの日だけで朝トラ2台、約10トンの材を木の駅に運んだ。

全国各地で木の駅プロジェクトが始まっている。「木の駅」は、不揃いの林地残材や間伐材を相場(1t2000~3000円)より少し高い価格(4000~6000円)で買い取り、大型スーパーでなく地域の商店だけで使える地域通貨で支払う仕組み。「朝

トラとチェーンソーで晩飯を」を合言葉に、あまり規格外気にせず、産物を道の駅に気軽に出品する

ように、気楽に山から木を出して、お小遣いにして森と地域を元気にしていこうというものだ。その運営は木の駅実行委員会のように中学校区ほどの単位で住民により自主的に組織される。その中で財政運営からルールなどすべてが議論・決定され、発生する遊ザヤ(過払い分)は寄付をはじめ助成金、森林環境税などの多様な手法で補填されている。

本誌2012年11月号で紹介されたように、木の駅は高知県仁淀川町での取り組みを原型に全国どこでも実施できるように標準化し、2009年岐阜県恵那市で始

まった。その後2010年には鳥取県磐前町、2011年愛知県豊田町、岐阜県大垣市、高知県土佐市、大川村・本山町、2012年愛知県新城町、島根県吉賀町、茨城県常陸大宮市、岡山県津山市、愛知県東栄町、秋田県能代市、岐阜県郡上市、長野県辰野町などに瞬く間に広がった。

## 本気の地元山主3人とよそ者1人いれば始められる

「今までもいいなあと思っただけの切り捨ての木が100円、天には売れ始めた。車で山道走って、もつと集積するようになった。」「母ちゃんがお金に愛した。兼当にお菓子とソーラーもつけて、山に行つてこい、という。」



丹羽健司  
1953年兵庫県三木市、徳州大学卒業後、農林水産省を経て、現在NPO法人地産地消機構で木の駅アドバイザー。2005年から市民参加型の森林調査「森の健康診断」を愛知県で開始し、2007年から「山田町まきまき」2009年から木の駅プロジェクト、2010年から「朝トラ」による木質資源の活用を全国に普及している。矢作川木質資源ボランティア協議会代表、総務省地域再生マニージャー。

思っていたらうまくいかなかった。これからは行く。11カ月で5ヶ月分売れた。いつも来ないお客さんが来てくれた。店を辱めようと思っていだけどもうちょっと頑張る。「モリ券がある」と、心が豊かになってつい大買いしてしまう。みんなの声が各地で聞かれるようになった。

「ソラサレはここで木の駅を立ち上げられるか?」講演会をどういつと集められる。「木の駅」の地元山主3人とよそ者1人いれば始められます。いつもそう言えることになっている。そのよそ者は、固定しがちな山村の人間係にずいぶん足を運んでくれる、山の人だけが集まりも商店だけの集まりも



▲「木の駅」ののびりが進む東栄町商店街

▲「木の駅」の開会式に30数台の軽トラが集会(2012/10/8、愛知県東栄町)  
◀土場で仲間と荷下りする伊藤さん(右から二人目)

いつも暗く切な。唇に終始する。しかし木、駅の公認では、それが化学反応を起す。山田のルール、地域住民の扱い、大型店舗や例外資本は誰の差別をどの譲渡を一つ決めていく過程で例かが変わっていく。ひとり暮らしの高齢山主をどう支えるか、イターン者への参加方法は、商工会に入っていない商店はどうする、これ以上行のお店を減らさないためには、村の温泉をサポーターに変えたら

いに思いやり始める。そして、白粉が始まる。俺たちの村のことは俺たちが決められるのだという実感が広がる。

「森は海を、海は森を、思いながら悠久よりの、愛おまきゅく。」  
熊谷那子  
あの「森は海の恋人」の原句だ。森が海を、海が森を恋うように、日本の小さな山田で山とお店とよそ者が心を寄せ合う営みが始まっている。

そんな各地の木の駅で化学反応を起している人々の息遣いを本稿で紹介していきたい。(つづく)



# 岐阜県恵那市中野方町

## 2009.12.5



# 夕立山森林塾と 笠周地域とのおつきあい



# 「杣組」誕生

- そんな中でも、お付き合いの結果  
中野方で山に目覚めちゃった人たちが現れる。



# やったらこうなった



# それから・・・



# 鳥取県智頭町 2010.10.16



木の駅で  
地域  
いきいき  
文・丹羽健司  
「木の駅」アドバイザー

# 智頭町木の宿場プロジェクト（鳥取県智頭町） 「これは山の仲間づくりだ」

## 町民に知恵を借りるしか：

「鳥取に木がないか？ 森の健康診断から木の駅まで、まるごとこちらにノウハウを移転してほしい。好きなことを思い存分やれるよ、給料は半分以下になるけど」と、NPO法人智頭おやじの会理事長の藤田光さんが語っただけ小さく私に囁いた。そして「子どもたちの帰ってくる場所を作りたいんだ」の一言で、4年を費した早期退職と、鳥取県の地域マネージャーとして2年間の鳥取単身赴任がきまっていた。2010年1月のことだった。

智頭町は鳥取砂丘に接する海側町。おやじの会は、海と水産の森をつなぐ活動に着手していた。その源流に智頭町がある。智頭町は

人口7700人「智頭杉」の伝統林業地、目通り1mの美林が随所に残っており、かつてその恵みで財をなした豪邸が点在する。林業で栄えた。鳥取県で群を抜く給付金町だった。「昔はよかった。スギ一本切ればひと月暮らせた。そんな過去の栄光を懐かしむうちに、価格下落で自慢の山を見るのも嫌になつてきた。昔を向ける、風を向ける、でもあつちを向いてもこっちを向いても山ばかり、町民がだんだんと向き始めた」と寺谷誠一郎町長。そこで町長は「町を元気にする知恵が町長にないれば、町民に知恵を借りるしかない。どんどん提案してくれ、予算は付けながら」と2008年に百人委員会を立ち上げた。

## 日本初 住民自治の「木の駅」

その百人委員会森林部会では、2009年9月に高知県伊予川町を視察し、2010年3月、岐阜県恵那市での木の駅プロジェクト報告会にも参加して部会内での検討が続いていた。私は、4月の着任と同時に森の健康診断と山開き書き進め、そして森林部の準備を進めていた。それは木の駅の出発点を作り、森を入れる作業でもあった。そして数えて少し遅らせ、6月に初めてその会議に参加した。さすがポテンシャルが高かった。発言を求められた。「この会議は、3カ月後開いても多分同じ人が同じことを発言し、同じやりとりが繰り返されるだけではないか」と進

まないだろう。議事録をとろう。ヨソ者を入れよう。実績でいいから気楽に始めよう」と生意気を言った。皆の顔色が変わった。

すぐに実行委員会が立ち上がった。日本初の住民自治の木の駅が始まった。名称は宿場町にもなると「木の宿場」、地域通貨名は「杉小判」と決まった。委員長は部長でもあり、これまで自ら提案し引つ張ってきた藤木草太郎氏に、メンバーにはヨソ者、研究者、NPOを加えて多様性と風通しのよさを大切にした。具体的な準備が始まった。当時、補助金制度が無く町あわせて1回あたり4450円あった。これを活用するには、市場出賃や代金の個人口座振込などが条件。当初計画ではこ

◀志一村の集出。プロとド素人が力を合わせる



れをあててしていたようだったが、議論の中で趣旨にそぐわないのがわかり退席した。そこで初心に戻って議論した。木の宿場に参加してほしいターゲットは誰か？ 素人山主だ。素人山主にとってはどれだけ補助金がついても市場への自力出荷そのものが大きなハード

ルなのだ。また地域通貨は必須だ。ならば補助金は深くあきらめた。そこでガタンと前線が動い



▲実行委員長の藤木草太郎さん



▲2010年10月16日、木の宿場オープン

## 6割が市場出荷の未経験者

現場は絶妙の距離感とバランスを保つて運営にかかった。このことを山本基成（のち山村再生課長）は、こうふり返る。「補助金を出すから勝手にどうでも、行政の役割を果たした（こと）にはならない。担当者と

プロジェクトは絶対に成功しない。みんなが一肌脱ぐ、これは行政として例外ではない。このプロジェクトを通して学んだことは、志と信頼関係である。おやじたちが、志や、信頼、という言葉で真顔に議論する姿はとてまかつよかった。

2010年10月16日はオープン。紙々と集まる軽トラの群れ、総数23台が並んだ。藤木委員長は「木の宿場は山の仲間づくりだ」と叫んだ。6割の出荷者は市場出荷経験がなく、そのほとんどがグループを結いで山仕事をした。山の仲間作りとともに先進地ゆえの苦悩とチャレンジも始まった。

(つづく)



▲地域通貨「杉小判」で山も商店も元気に

# 智頭町木の宿場プロジェクト②（鳥取県智頭町） それでも俺たちで何とかする

（※9月号からの続き）

華々しい船出。そして悩み

「ありんかったことごとく、こころ  
して素人の人らあと山仕事の宿場  
「船に酒を飲めるのなんかに、これ  
「いいのよー」園石さんが太  
い調で豪快にジョウホキを巻ける。  
寺島さんが真つ赤な顔で相槌を打  
つ。「んとも智頭町森林組合の作  
業班の即き上げだ」

2010年10月、智頭町の「木  
の宿場」は早急な幹トラの行列で  
華々しくデビューした。1週間後  
には全国放送、さらに1週間後  
には英語吹き替えで海外放映もされ  
た。私も各地でそのビデオを披露  
しまくった。1カ月で196人、  
出荷者20人、商店26店。3カ月後  
の報告会には全国からも参集し、祝

賀も各地から押し寄せた。翌年3  
月の東日本大震災の復興支援では、  
木の宿場の提案で町ぐるみで取り  
組んだ。「届けよう智頭のぬくも  
りぞ」を合言葉に、智頭杉ででき  
たDIY組み立て間仕切り棚セッ  
ト「郷手仕」1万本余りを寄贈し、  
これもマスコミで大きく取り上げ  
られた。

2年目は、出荷者も商店も増え、  
500ト集荷した。実行委員会では、  
目標数量を下回ったのは林政  
転換の過渡期で、出荷者の戸惑いと  
対応の遅れが響いたと分析した。  
3年目の2012年は、バルブ  
チップの価格低落と荷受制限が始  
まった。これは全国的な傾向で各  
地の木の駅が苦しみ、それは今も  
続いている。出荷先を変えたり運

くまで運んだり、実行委員会は苦  
慮した。控えて250トの集荷。  
先は見えないものの、何とかする  
と腹をくくった。

## みんなの「何とかしたい」

そこで、智頭町役場は運手や補  
助を段階的に下げるのを2200  
円/トとどめた。すでに出荷登  
録者限定で、2年目は切り捨て  
間伐の補助制度を新設し、3年目  
には作業道作設の補助制度を新設  
した。厳しい財源事情の元で、木  
の宿場の灯をともし続ける懸命の  
努力が続いた。

4年目の2013年、森林組合  
の大谷工場長が動いた。かねてよ  
り公共土木事業の草止め、土留め  
資材の間伐材利用を鳥取県などに

働きかけていた。4月、小径の1  
m材と2m材が500本を森林組  
合で受注し、木の宿場からの納材  
を提案した。1m材1本1000円。  
立米換算では60000円になる。  
希望が見えてきた。

同じく、賣露おやじの会の藤田  
理事長も昨年から動いていた。鳥  
取市内の新ストーブニューザーに呼  
びかけて薪の駅を立ち上げた。木  
の宿場の材を50ト近く買い上げて  
薪にして販売することを始めた。  
買露おやじの会は、郷手仕の売上  
の一部を木の宿場支援に還元す  
る仕組みを作ったのに続いて、新  
販先でもその協働を展開した。智  
頭町も動く。温水プール熱源への  
薪ボイラー導入調査を始めた。な  
んとかしたいという木気が同時多

発した。

## ゼニカネじゃない

志村材搬出会（ボランティア作  
業による寄付材の搬出イベント）  
は1年目から続いている。昨年か  
ら年4回、今年は開催月間集とな  
った。出荷者だけでなく、学生  
や薪ストーブニューザーはじめ産  
全体に呼びかけてきた。まさに  
若く男女が集う。フィールドは森  
林組合の土木事業が見守りを付  
ける。本人の初心者が搬出するこ  
ろは、園石さんはじめプロたちが



▲女子学生たちも志村材を搬出

「俺たちが前の日に伐っておくか  
ら、ゼニカネじゃないけん。役に  
立てれば嬉しい」と分厚い胸を張  
る。当日は、幹トラだけでなく森  
林組合のユニトラックや大型トラク  
もズラリと並ぶ。手練の者たちは  
ガンガン切り出し次々と搬出し、  
初心者たちは教わりながらはら  
ち運び出す。この7月27日には26  
人で602本搬出した。お荘には  
情長く弁当を食べて、全部済んだ  
ら恒例の懇親会、プロと素人が、  
地元とよそ者が、渾然一体となっ  
て山で汗を流し山仕事の話をす



▲飲みニケーションが盛んな木の宿場

る。プロへの敬意と素人への労り  
が交差する。その心地よさが智頭  
林業のプロたちの心を揺さぶるの  
だろうか。そして冒頭の言葉にな  
る。  
この夏、智頭小学校では生徒た  
ちに杉小舟（地域通店）のデザイン  
を募集した。杉小舟をもっと生  
活に親寄せさせ次の世代につなげ  
たいとの願いが込められた。  
私が智頭町で任に当たった2年  
間、繰り返した言葉がある。智頭  
を出て1年半経った今、やっぱり  
思う。「智頭はすこい」。



▲女子研習り園研修



▲遊樂所で間仕切り棚として活用された船手仕  
▲東日本大震災復興支援活動～材搬出会

# 特 徴

## 1 住民自治・地域づくりの下地の上に立脚

- ① 日本1／0村おこし運動・・・住民主体の地域づくり
- ② 智頭町百人委員会・・・町への政策提言機関

## 2 実行委員会形式（第1号）

- ① 地域の多様な主体の参画（百人委員会農林業部会）
- ② ヨソ者や行政の参画（川下NPO、大学、役場）

## 3 土台づくり・魂注入の並行実施

- ① 森林塾・・・素人山主向け（選木、伐採、搬出）
- ② 森の健康診断・・・人工林の状況調査
- ③ 山里の聞き書き・・・山里で暮らす知恵と喜びを知る

# それから



## 智頭温水プール (NSIリプルスイミングスクール)

TEL. 0858-75-1671

● ベビースイミング

● 利用料金

● 近辺マップ



# 愛知県豊田市旭町 2011.3.5



**木の駅で地域いきいき**  
文・丹羽健司  
「木の駅」アドバイザー

# 旭木の駅①（愛知県） 3カ月で立ち上げ

「これを地でもらうまいか」

「『地』の前身なんかに日本一高く買われて、とおおしじがう。だから俺も行ったことなかった。旭木の駅実行委員長の高山治朗さんが話し始める。「けれど、モリ券の取扱が切れそうだったので、しようがなくて買いにいった。そして、これが買えたかったんだなあ！」

豊田市単地区で日本3番目の木の駅が立ち上がったのは2011年3月5日。ちょうど鳥取県智頭町で第1期木の駅プロジェクトの報告会開催の日だった。前年の12月11日、私は地域のキーパーソンであり豊田森林組合の専務でもある林富蔵さんそふらと訪

ねて、恵那市や智頭町の木の駅の話をした。林さんは全く動かない。地域と林業の将来を嘆いた。それが、私のノートパソコンで木の駅のTV録画を見るうちに顔色が変わった。「これを地でもらうまいか」。

展開は早かった。12月27日には約15人集まり準備説明会、1カ月後の1月26日には木の駅説明会、山主、商店、よそ者が40人近く集まり、3月5日のオープンが決まった。こんなに短期間の立ち上げはその後も例がない。

**よそ者を受け入れる  
度量と危機感**

旭木の駅の人材はバラエティに富んでいる。12年は「木の駅女子部」まで出現した。森林ボランティア

エーソソも使えんかったので秋にとまた森林学校に入って商った。それでさっそく開校を始めた時、ちょうど木の駅が始まったってわけさ。モリ券は面白い。心が豊沢になるなあ、ついつい大買いしてしまおう」と繰り返す。

オヤ、運はモリ券で豊沢におおと願って買ってしまった。それがこの頃、さうさ変わって来た。奥さんたちがモリ券で買い物するようになった。奥さんでも使う人が増えた。さうさ「さうさ」。

▲旭木の駅のオープン日、2011年3月5日



▲旭木の駅実行委員長の高山治朗さんから20日間ほどで141を出荷



▲「これまでに売った地元の元が来たよ。地元が来たよ。地元が来たよ。」と、地元が来たよ。地元が来たよ。地元が来たよ。



▲「木の駅」のシステム概念図

ト3は毎回入れ替わり、新しい人が加入して競い合っている。一方、商店ベスト1は毎回森林組合購買部で、ソーチエーンやトビがよく売れるようになった。遅かった森林組合が近くなった。そして行成も活躍する。(つづく)

イアの活動も盛んだ。よそ者たちが超元気のだ。彼らを受け入れる度量と危機感がここにはある。旭町では小学校が一つ廃校になったばかりだ。人口は3050人、小学校入学者数は15人にまで減少した。そんな中で1ターンのカップルが1昨年に続き昨年も一軒、村の神社で結婚式を挙げ地元の人たちの祝福を受けた。そんなよそ者と地元をつないでいるのがNPO法人スローライフセンター事務局長の西川早人さん。林さんと一緒に地域に声をかけ木の駅を立ち上げていった。

集まった木材は製紙パルプチップ会社が3000円/トで引き取ることにした。出荷者に支払う6000円/トとの差をみや(過私

**出荷量トップは40年ぶりのUターン者**

高山さんは、2010年長男の就職を機に会社を58歳で退職して、40年ぶりに実家のある旭町に戻ってきた。そんな矢先に木の駅が始まった。「息子は自然療の専攻で、俺は田んぼや畑、それに山をやることにした。とはいっても、チ

い分)はNPOの自己資金と寄付で賄うことになった。大口寄付があった。市民団体の「郷手仕おかげまわし東海」が10万円の寄付を申し出た。郷手仕は製材端材を活用した箱立キット。その代金の5%を木の駅の立ち上げや運営に支援することにしていた。さらにチップ会社の社長や地元の旅館や土産屋さんをはじめたくさんの人々が寄付を持ってきた。

そうして始まった第1期は3月5日、3月27日、出荷者30人、商店19店、出荷量90トだった。第1期のモリ券長者が、14ト出荷した高山さんだった。

高山さんは、2010年長男の就職を機に会社を58歳で退職して、40年ぶりに実家のある旭町に戻ってきた。そんな矢先に木の駅が始まった。「息子は自然療の専攻で、俺は田んぼや畑、それに山をやることにした。とはいっても、チ



# それから・・・ 都市木質化計画と長者町の森づくり



写真3 名古屋センタービルの敷地に設置されたSWD



# 岐阜県大垣市上石津 2011年9月



**木の駅**で  
**地域**を  
**いきいき**  
文・丹羽健司  
「木の駅」アドバイザー

# 木の駅上石津（岐阜県） 「お金だけなら、やっくらん」

れた木をみんなで  
搬出して木の駅に  
出した。「みんな  
がちよっとその気  
になったら、いく  
らでも出せるん  
か」と笑う。

「みんながその気になったら  
いくらでも出せる」

「こんな面白いことは2度とやら  
んぞ」と言いながら、83歳の三輪  
利男さんは軽トラまでの100m  
斜面を一輪車で400回近く往復  
した。25年生のスキをすべて40cm  
に切り、猛暑の8月初旬か  
ら10月までに運んだ量は軽トラ  
50台分で20㎥。「木の駅上石津」  
にうす高く積まれた。何でそんな  
にまでして？ の問いに、「自分  
で植えて育てた木を山で腐らせる  
のが忍びない」。

岐阜県大垣市上石津町は平成の  
大合併で大垣市と一緒になった。  
ただ、合併協議の過程で周辺町村  
が離脱し、その結果飛び地となっ  
た。大垣市は濃尾平野の西南部に  
広がる水田地帯で、飛び地の上石  
津町だけ山がある。ご多分に洩れ  
ず高齢高齢化が進み小学校の統合  
話を持ち上がり、合併による埋没  
の危機感が強まっている。



▲坂口智之さん  
（上石津町実行委員長）

2010年秋、坂口智之さん  
（現・木の駅上石津実行委員長）  
たちが東郷市の木の駅を視察した。  
続いて鳥取県智頭町での「木の駅  
学校」に参加し、上石津町での実  
施を決意した。上石津町時地区に  
は合併前に細削した温泉がある。

地よりのだ。  
次に商店の話になった。出資者  
たちの「便利やからAコープの店  
も登録店に」という声が大勢を占  
め始めたとき、それもガソリン  
と一緒だろうかとの議論が活  
まった。「そうや、農協なんか業  
績が悪かったらいつでも引き上げ  
よるからな」「そやそや」「そっ  
ぱり不便でも地元のお店を大事に  
しよ」と。こんな議論が毎月繰  
りわられた。  
そして2011年9月、木の駅



▲目立てから伐木・選材までを山盛り動き

上石津が始まった。1年目は2カ  
月で165㎥の集積、出資者29戸、  
登録商店27店。  
「面白くなってきた！」  
2012年3月、2年目に向け  
てのスタートで、坂口委員長は購  
入していた。1年目では手当てさ  
れていた市の補助が、秋まで目処  
が立たない。農協では春は休止で、  
秋から開始の予定だった。「遊サ  
ヤ補填のメドのつく、秋まで休止  
したら」と実行委員会が話した。



▲丸太を満載の軽トラ行列

当初は温泉施設の計画もあったが  
合併で頓上げになり、現在は温泉  
スタンドでの供給にとどまってい  
る。温泉施設を稼働させ、その總  
料は地元に残る大資本パイオマ  
スで自給して、山の恵みを地域に  
還元したいと考えた坂口さんたち  
は木の駅に着目した。

「木の駅やっても、山に道がなか  
ったら出せへんやないか」と、三  
輪直義さんは東郷視察の帰り道に  
考えた。さっそく森林組合に出か  
けて相談した。山を取りまどめて  
団地化すれば、開伐がでま林道が  
作れると聞いた。すぐに動いた。  
自分の住む集落のひと弁の山主20  
戸を、1戸1戸回って合意を取り  
付けた。すぐに開伐と林道作りが  
始まった。そして、切り捨てさ

一つずつ、みんなが決める

2011年4月、木の駅上石津  
実行委員会が始まった。この実  
行委員会はジョークが飛び交い、  
いつも賑やか。学農委員会のよう  
に多数決もよくとる。例えば、お  
釣りのない地域通貨はガソリン利  
用に集申しがらだ、そのガソリン  
を使つて、よその大型店に買い  
物に出かける必要はないという  
ことで何枚かに1枚だけ、ガソリ  
ンに利用できるように決めること  
になった。3枚か4枚に1枚で12  
割ずつの回数になり、最後の筆手  
で4枚に1枚に決まった。「お  
1」と歓声がある。他愛ないこ  
とのようにも、こうして一つ一つ  
意思に決めていくことが単純に心

「なんや、純けんのか」「せっ  
かく面白くなってきたとこやのに」  
「しゃーないな」「もう道まで出  
してあるぞ」など声が上がった。  
「いつもの通り筆手で決まったりま  
しよか？」「遊サヤ補填なしで3  
800円/1でも出資したい人は  
手を挙げてください」……。  
なんと全員が手を挙げた。会場  
がざわめいた。そして拍手。「お  
金も欲しいけど、それだけならこ  
んなことやっくらん」「遊サヤは、  
水を使えば使っている農業用水  
や大企業にも寄付を頼も」「そや



▲仲良く出向する三輪直義さん父子

そや」。もう、このおじさんたち  
を誰もしられない。  
「木の駅上石津」2013年4  
月3年目が始まった。これまで  
集作り・集積先にシフトしてい  
くことになった。温泉施設開業の志  
願達成まで、おじさんたちの意思  
は荒くなるばかりだ。



▲木の駅ボックスに在庫を  
投函する山元さん



▲木柴の担い手に薪割りを教える坂口委員長

# それから・・・ 手作り温泉湯葉の湯



## えばしの星便り

大垣市上石津町時地区より、時々あつみの活動記録と市内・町内の情報発信ブログです。



決め、再開にこぎ着け土曜日と第2、4日  
た。施設は自主運営の日の午後1時〜同  
道を探りながら、2年 時。中学生以上が3  
目の営業に入った。 0円、小学生100  
運営するのは地元の と、昨年度と同じ料  
有志でつくる「かみい とした。  
しづ温泉入浴施設運営 地元の春まつりが  
検討委員会」。旧上右 われた20日は一日限  
津町が観光振興を目的 で無料開放され、太  
に10年前に掘り当てた の住民でにぎわった。  
源泉を活用。昨年、ス 今月、同町に引越  
源をのり。昨年、ス 今月、同町に引越  
ギの間伐材を使った手 てきたばかりの林業

# 吉賀町木の駅プロジェクト 2012. 6. 2



**木の駅**で  
**地域**いき  
**いき**丹羽健司  
文・丹羽健司  
「木の駅」アドバイザー

吉賀町木の駅プロジェクト（鳥根県）  
**本気が連鎖する地域と学校**

「受け入れてもらえた」

「昔の風情に戻ったようで懐かし  
いねえ」。夕闇の中で、廃校跡に  
ある木の駅の土場を一人で片付け  
ていた小林健吾さんは、見知らぬ  
おじいさんから声をかけられた。  
「新しい中学校ができたところは  
」。「昔は野木場で……」。問わ  
ず勝手にポツリポツリ話す姿に接  
した時、初めて「キッとしてよかった  
受け入れてもらえた」と心を感じ  
た。

小林さんは35歳、7年間の東京  
でのサラリーマン生活に見切りを  
つけて、2009年11月に「地域  
おこし協力隊（※）」として吉賀  
町に赴任した。着任の翌朝、意を  
開けた瞬間目の前に広がる紅葉の

美しさに息を飲んだ。季節の移ろ  
いを感じることもなく過ごしてき  
たこれまでの都会暮らしを振り  
返った。「どうしてこの生き方  
を？」と問われるたびに、この日  
のことを話そうになった。

吉賀町木村は有機農業の先進  
地で、先駆的なことやイターン者  
を地域は温かく受け入れてきた経  
史がある。96%が森林で過疎の村  
をどうするか、山村再生のきつか  
け作りを探る中で木の駅プロジェ  
クトに出会った。2011年春か  
ら高知県仁淀川町や鳥取県智頭町  
などを視察し、2012年2月に  
実行委員会を立ち上げ、6月2日  
にはプレテストとして小さく始め  
た。出席吉賀名前のうちら名が山を  
持たないイターン者だった。彼ら

を応援する地元山主たちは、彼ら  
に山も道具も技術も提供した。

本気と成果

川本隆光さんはそんな応援団の  
一人であり随分でもある。持ち山  
に道を付けて「山の学校」を主宰  
し、子どもらに山仕事や原木シイ  
タケを体験させている。村上貴さ  
んは木の駅実行委員長で、「山の  
学校」のお手伝いから木の駅につ  
ながった。二人の口癖は「子ども  
らを育てにやいかん、仲間作りが  
一番大事」。川本さんらにとつて  
は、イターンの彼らもかけがえの  
ない子どもなのだろう。チェーン  
ソーの扱いから搬出まで丁寧に教  
え、持ち山を提供したり山主の友  
人を紹介したり話を焼く、有機

農業を志してきたイターン者達は、  
「農だけでなく農林だったんだよ  
ね」と視野が開ける。地元の県立  
吉賀高校も反応し、美術部が地域  
通貨のデザインを担った。

1カ月に60tが集まり、隣の  
のチップ工場へ出荷した。11  
6000円を地域通貨で支払い、  
発生した運賃やば小林さんら主要  
メンバーの負担と寄付で賄った。  
当初から温かく見守っていた吉賀  
町役場は、その本気度と成果を高  
く評価し、10月末からの本格実施  
には助成金を手当てした。2カ月  
で21戸81tが集まった。さらに、  
11月で地域おこし協力隊の3年の  
任期を終えた小林さんを臨時職員  
として採用し、木の駅の運営と町  
内他地域への普及を任せた。

※協賛省による制度。地域おこし協力隊員は、地方自治体の  
要請を受け、地域で生活し、各種の地域協力活動を行う



▲旧木村中学校と木の駅  
土場  
▲右から小林健吾さん、川本隆光さ  
ん、村上貴さん



▲「山の学校森林塾」でチェーンソー研修

中学生も木の駅へ出資

町内の蔵木地区では、2013  
年7月から木の駅が始まることにな  
った。これまで説明会を繰り返  
してきたこと、イターン者ら  
の働きかけがきっかけで広がっ  
た。蔵木中学校は全校生徒数21名  
の小さな中学校。昨年は課外授業  
で「森の健康診断」に取り組んだ。  
今年は調査から選木・伐木に加え  
て、搬出して木の駅に出荷するこ  
とにした。そのあと商店で地域通  
貨を実際に使うことまでやること



▲昨年の蔵木中学校での「森の健康診断」



▲「本物に触れさせたい」  
と語る大畑校長

になった。大畑智幸校長は言う。  
「森を守ることには本気を元気にす  
ること。自分たちの伐った木を出荷  
し、地域通貨を手にお店に使  
うことで、みんながハッピーにな  
ることを体験させたい。それが将  
来のイターンと定住につながる。  
何より、本気で必死に取り組んで



▲吉賀高校美術部デザインの地域通貨

いる小林さんという人間に触れさ  
せたい。生徒らは本気に必ず反  
応する。」  
蔵木の土場なら校庭の一角を使  
えばよさげだ。木が積んである風  
景、じつとみんなが軽トラで元  
気に運んでくる姿を生徒たちに見  
せたい。「無校舎で本気が、  
一人のイターンの若者の本気と、  
それを放っておけない山主の人々、  
互いに思えば温かき心あひなが  
地域も山も学校も子どもたちも  
も変わっていく。木の駅がもう一  
つの学校になり始めている」

# 木の駅プロジェクト美和 2012. 6. 17



**木の駅で  
地域  
いきいき**  
文・丹羽健司  
「木の駅」アドバイザー

# 木の駅プロジェクト美和(茨城県) 「何でもやれそうだ！」



▲木の駅プロジェクト美和  
実行委員長の龍崎真一さん

「このままではダメになる」

「やるぞー！ 決めた」。東京から帰ってくる龍崎真一さん(木の駅プロジェクト美和実行委員長)は、茨城県常陸大宮市美和地区で建設会社を営む3代目社長。美和地区は森林集積地、和紙の産地として栄えてきたが、人口は4000人を切り、小学校の新生も一所に迫っている。龍崎さんは、「このままでは美和はダメになると危機感を募らせていた。そんな矢先のことだった。東京での講演の直後に駆け寄ってきた龍崎さんは、「いつなら美和に来れますか?」と手帳を開いた。その2週間後、ヤケドとそうに熱い

龍崎さんと沈着冷静な清水さんと3人で、時間を忘れて話し込んだ。それから半年、忘れかけていた頃に電話がかかった。「もうすぐ始めます」。びっくりした。

## 村の魅力を引き出す

「木の駅」ホームページから運営のマニュアルをダウンロードしたり、先輩者の活動報告書を読んだり、レンジして、順業に実行委員会を開いて進めたという。第1期は2012年6月17日から7月までの集荷となった。8月初旬に電話した。「どうだった、面白かった?」「はい、面白かった!」声が弾んでいた。「どれくらい集まったの?」「出荷登録8戸、277戸」。驚い

た。「商店は57店」……その数字よりも、主催者本人たちが「面白かった!」を共有できたであろうことが何より嬉しかった。

地元商店の相次ぐ廃業に危機感を募らせていた相河商店の相河勝夫さんは、龍崎さんたちの呼びかけにすぐに反応した。商店を片っ端から回って参加を呼びかけ、同意を取り付けた。それを知って、美和木材協同組合の大森豊さんや森林組合の薄井均さん、興誠OBの川野和彦さんらは慌てた。「商店が頑張ってる、山の出荷者がちよへんでは嬉しかったかんとべ」と仲間への声掛けが始まった。そんな勢いが村の魅力を引き出した。集まった材は、美和木材協同組合にあるオガ粉製造プラントが

3500円/㎡で引き取って、畜産用の敷料などに加工される。出荷者には5000円/㎡がもり券で支払われ、市を県からの助成のない中、差額は龍崎さんや清水さんで作る「森と地域の調和を考える会」が負担した。

第2期は10月20日、11月まで245戸集荷した。今度は赤字克服のために寄付材を呼びかけた。そうすると、心配した個人や森林組合から大量の寄付材が寄せられた。結果、第2期では逆ザヤ(過払い)は解消して、みんなでお助け合って続けていこうという村人の意識が現れ始めた。

## 本気でこの村と共に生きる

桑田博次さんは、今年退職を機

にシイタケ栽培を始めていた。その初収穫を目の前にして東日本大震災があり、出荷を控えることになった。これからという時に味わった挫折だった。そんな時に木の駅プロジェクトが始まり、好きな山仕事にまた精を出し始めた。「山はやっぱり清々しい」と目を細める。

3月1日、そんな桑田さんの山に小学生たちの声がかました。隣町の常陸大宮北小学校の5

年生25人が訪れた。「森」と「木の駅」のことを子どもたちに伝えてほしい」と、木の駅プロジェクト実行委員会に依頼が舞い込み委員全体で引き受けた。子どもたちは暗い森を見たあと、手入れの行き届いた桑田さんの森に入った。「この山は全部、福田さん一人できれいにしたんだよ」の説明に、「カッポイ!」と目を輝かせる。子どもたちは、木を軽トラまで運んで積んで木の駅に出荷し、もり券を受け取り使うところまでを体験した。「なんでお金じゃないの」との質問に、大人たちが真摯に説明する。「なんでこんな『木の駅』をやるのか? 一人一人の幸せを豊かさ、地域全体がそうでなければ実現できない……」。汗を拭きながら、大人

たちが自問自答するように答える。子どもたちは森や木だけでなく、水気はこの村と共に生きようとする大人たちの姿を見るのだった。茨城県常陸大宮市美和地区。自分たちの村のことは、自分たちでなんとかやることに決意が深まった。

「なんでもそれそうだが、今度は新敷や地域の調和施設への地味供給なども始めようか」と、アライヤさんが語る。一人の覚悟が村に響き渡る。これまで動員できなかった村がワザワザと動き始めた。



▲オープンの2012年6月17日、出席者が勢揃いした



▲軽トラが並びさげ流溝(?)の横町

らまでを体験した。「なんでお金じゃないの」との質問に、大人たちが真摯に説明する。「なんでこんな『木の駅』をやるのか? 一人一人の幸せを豊かさ、地域全体がそうでなければ実現できない……」。汗を拭きながら、大人



▲「山はやっぱり清々しい」と桑田さん



▶「この山は全部、桑田さん一人できれいにしたんだよ」

▶「これまでも来たかったお宮さんと相河さん

# 愛知県東栄町10/8



**木の駅**  
地域  
いきいき  
文・丹羽健司  
「木の駅」アドバイザー

とうえい木の駅実行委員会（愛知県東栄町）  
**素人パワーズ、ハマハマでびきる！**

行政主導から住民主導へ

「とうえい木の駅」は、行政主導で進められてきたが、現在は住民主導で進められている。大抵だめですわね。」  
「そうかい。予算もつけて、委員会もあつちまつたけど、よしわからなかった。」

とうえい木の駅は、愛知県東栄町で、2012年2月、愛知県東栄町での「木の駅」の開設が、地元直轄、隣の東栄町から北進びで参加していた尾林克時町長が駆け寄ってきたのやりとり。ここから「とうえい木の駅」は始まった。

東栄町は人口3700人で森林率91%。高齢と少子高齢化に悩む愛知県東栄町の静閑無境の町。町長へ木の駅プロジェクトを提案したのは工藤和美さん。「チェーンソーアート」の東栄町」を社に出し、

毎年5月に開催し今年も1万5000人を集めるチェーンソーアート大会の実行委員長でもある。

町長の切り替えは早かった。「それなら住民主導で」と、ふるさと財団の新・地域再生マネージャー事業の活用を決めた。彼本人の工藤さんは、森林組合や商工会はじめ町のキーパーソンたちに声をかけ準備を進めた。6月には実行委員会を立ち上げそのまま委員長に委ねられた。

素人集団も真っ先に奮闘

名前は「とうえい木の駅」。地域振興名は「オニ券」、1枚500円で単位は「スター」と、実行委員会では「一つ一つ賑やかに決まっていこう」「オニ」は東栄町のシ

ンポルである「花祭り」の鬼から、スターは「日本一星のきれいな町」から……と、地域の誇りが木の駅に散りばめられていく。この過程で当初懐疑的だった商工会が

変わった。商店向けの説明会を開き、個別に動員し、2次流通促進のための会計処理マニュアルを作成し、オニ券のデザインを引き受け、商工会事務所に移設するための木の駅ポストまで設置した。結果、登録店舗は40を超えた。山もお店も一丸となって動き出した。

キックオフは10月8日。開会式をお祭りしよう、和太鼓集団「志多ら」が友情出演してくれた。若者が太鼓を打ち踊る中、30数台の軽トラが丸太を満載して並んだ。「志多ら」は24年前に東栄町に移

り住み、東栄町小学校跡を拠点に世界を舞台に活躍している。3年前からはその活動と地域づくりを支援するNPO法人「てはへ」が

組織され、木の駅プロジェクトにも真っ先に奮闘した。大飯と新郷から移住した西園幸一さん、星野克之さんが中心になって、素人集団で古民家再生、間伐材の家づくりや丸太を木の駅に届けるイベントまで開催した。

木曜日、木の駅の日

「オニ券で飲む晩酌はうまいぞ」。佐々木経人さんが笑う。5年前に地区の仲間10数名を集めて「古戸推進会」を立ち上げた。地区の荒れた山林をなんとかせよと、仲間と動き始めた矢先に、「あいち森

と緑づくり税」の森林整備事業も始まり進捗した。団地化にあつてまず地区の山林所有者一人一人から計1000筆の合意を取り付け、境界立会・測量そして間伐までを会費で取り頼んできた。そこから発生する林地残材を、毎週木曜

日に会員みんなが木の駅に出荷する。佐々木さんは言う。「いいことだけじゃなく、地域のために本気でやることが一番大事」。

10月12月の第一期が終わって、74人が集まった。誰もがオニ券表若しくは古戸推進会だと思っていた。ところが裏を開けてみると、備忘録で「てはへ」の素人集団が出荷1位だった。本人たちもびっくり。度



▲木の駅開会式での「志多ら」の太鼓と語り



▲とうえい木の駅実行委員長の工藤和美さん



▲「てはへ」の間伐材搬出イベント

とうえい木の駅実行委員会は重要な研修会イベントの人海戦術で素人の底力を見せつけた。



▼古戸推進会の作業の様子

山のお見合い

「みなさんの顔つきがどんどん変わってきた。行政主導で進められてきたが、今は住民主導で進められている。木曜日、木の駅の日」



▲第一期オニ券表者、「てはへ」のこうちゃんどほっしー

「みなさんの顔つきがどんどん変わってきた。行政主導で進められてきたが、今は住民主導で進められている。木曜日、木の駅の日」

# 進化する木の駅









**木の駅で  
地域  
いきいき**  
文・丹羽健司  
「木の駅」アドバイザー

# 林研でやろう！ 自分たちでやるのは面白い！

## 木の駅、続々

「やっぱり、木の駅やりてえよね、根羽村で」。深夜に電話がかかってくる。きつと酔っているんだ、石原明治さん。2010年3月の

岐阜県恵那市中野方での木の駅報告会以後、忘れた頃にふと電話がかかってくる。

2013年10月6日、その長野県南信濃の根羽村に軽トラの行列ができた。石原さんは、「木の駅わばりん実行委員会」委員長で、



▲「木の駅わばりん」に出向する軽トラの行列 (長野県根羽村)



▲根羽村林研会長の石原明治さんが経営する「郷久酒店」

## 林研が中心になってきた

「藤久酒店」の主人であり、根羽村林研研究会の会長。3年越しの夢が叶った。

この秋の木の駅開始に向けては、奈良県古野町、栃木県那珂川町では準備を終え、他にも埼玉県秩父市、岐阜県関市など、もはや筆者も知らない所で次々と木の駅が増えている。

そんな中で特徴的なことがある。それは「リンケン」。林研研究会というのにはもはや過去の新聞だと思いついていた。ところが最近の問い合わせと実際の立ち上がりの中核は、いずれも林研なのだ。そこには「本気の地元山主」がきりきりとうかっているのだ。古野

町(奈良県)の中井さん、糸島市(福岡県)の古村さん、那珂川町(栃木県)の藤田さん、その間には本気の熱い。林研人が集まっている。そういえば「どうい木の駅」関係者の藤田幸子さんは、かつて全林研女性会議の副代表だった。実行委員会をいつも上品にユモラスにコーディネートしている。軽やかに「木の駅一帯にやろうよ」と挨拶がわりに声をかけ、自らの山を若い世代に提供したりと、山に向き合う姿勢はちょっと変わらぬ。各地で高齢化に悩み若返りを図りながら、山づくりと村づくりを取り組んできた林研。それが木の駅をツールとすることで、カタンと備前がまわり始めたのだらうか。

## 地域のエネルギーも 自給できる

もう一つの音波はエネルギー自給。根羽村は、集材機が壊れた木で村のじいさん、あきさんの体と心を暖めよう。2015年春開業予定の特別養老ホーム施設の温浴水給湯設備に薪ボイラーを設置を決め、木の駅を立ち上げた。根羽村には本質バイオマス発電、初原町(岐阜県)は薪ボイラーの熱源に薪ボイラー、上石津町



▲関係する「薪の駅」から温泉の薪ボイラーへ (「やまお木の駅」/岐阜県恵那市)

(岐阜県)は薪ボイラー独立小屋温泉を手作りする準備を始めた。また恵那市では、新たに「やまお木の駅」ができた。これまでは2012離れた市北部の「菅間木の駅」から丸太を温泉施設に運んできていたが、地元にも木の駅を立ち上げてしまった。木の駅の元氣オヤジたちが地域のエネルギーも地域の木で自給すること、いや、できることに気づき始めたのだ。

根羽村では、熱源をチップボイラーにするか薪ボイラーにするかを議論した。専門家に丸投げすることなく、議員も行政も住民も一緒にあって、メリットとデメリットの議論を重ねた。

「チップは湿度管理が便利で他所からも調達可能だ」

「薪は人がいちいちくべなければならぬし不便。高齢化する村では大変」

「チップの機械代も燃料代も村外に出ていくだけ。稼働日数は少なく、機械化投資では？」

「木の駅に出てきた丸太を切つて

## 地域で暮らし続ける森蔵

各地の木の間がなくなり始めた。竹間や智頭、旭(愛知県)など先を行く木の駅は常に新しい壁にぶつかると。発見や喜びが大きい分、苦悩も深い。それらの経験を共有しながら要らぬ苦労は避けて、困ったときには兄弟のように助け合っている。木の駅サミットや木の駅会議を開催してきた。3月にはチップ以外の需要開拓。7月には新利用。9月には新規立ち上げについて全国各地から手分けで

集まり情報交換をし、酒を飲み交わす。

木の駅は自給だど繰り返してきた。木の駅は心地よさの経済でもある。皆で動く中で、つながること、なぜか山もお店も地域も楽しくなる。誰かがこ

▼全国から同志が集う「木の駅サミット」



第1回 木の駅サミット in 東那

# それから・・・



# よしの木の駅(奈良県吉野町)



# 東城木の駅 (広島県庄原市)



# 木の駅のエピソード

- ◆ 「真っすぐの良い木が出る。市場に出してみたいので、高く売れるように造材の研修をやってくれ」→市場担当者を招いて研修→ユニックのレンタル、小径木センターや原木市場への出荷増加
- ◆ 「このままだとあと1～2年で道沿いの山の間伐は済んでしまう。奥山から出したいので道づくりの研修をやってくれ」→道づくり研修、バックフォアのレンタル
- ◆ 道端に転がっている木が500円玉に見えるようになった。
- ◆ あんた！ごろごろしているんだったら山に行って杉小判もらって来んさい。
- ◆ 「友情のババ抜き」「閉めるのやめた、続ける！」



# 農業における道の駅の地域活性化効果

- 市場出荷やJA出荷・・・荷揃え・規格・時間制約などが厳しくて大変→専業でなければできない、片手間ではできない、やっぱり無理だよな～→やる気減退→農地荒廃、人も地域も荒廃
- 道の駅や産直販売所・・・荷揃え・規格・時間制約などがラフ→片手間で気の向いたときに出荷できるから楽チン→儲けにならなくても、小遣いや晩酌代ぐらいには十分なる！→やる気満々→農地も時間も活用、人も地域も少し元気になる
- 直販所は全国1万4千か所平均売り上げ1億円

# 林業における「木の駅」効果

木材市場に出荷・・・ほとんどの山主は素人である。曲がり抜きや枝払いなど造材規格が厳しい。太くて重い。搬出する機材(集材機、トラック)もない。利用間伐の作業委託すると赤字が不安。土場まで運べても、運材はプロ任せ。このように林家が用材(A・B材)を出荷するハードルは非常に高い。→やる気減退、山林荒廃山村荒廃。

- ・「木の駅」に出荷・・・軽トラとチェーンソーくらいはどこも所有している。タンころ(C材)を搬出するくらいの体力と時間はある。片手間で気の向いたときに軽トラで出荷できるから気楽→儲けにならなくても、小遣いや晩酌代ぐらいには十分なる！→やる気満々  
→山林も時間も活用、人も地域も少し元気になる<sup>100</sup>

## 木の駅p.jに必要なもの(例えば100トン)

- ◆ 集積土場(0.1ha)・・・ただし10tトラック横づけ可能
- ◆ 伝票、チョーク、メジャー
- ◆ 地域通貨印刷(copy, printout)
- ◆ @3000円×100トン=30万円
- ◆ 発券&換金作業(アルバイトもしくはボランティア)
- ◆ 実行委員会の準備と開催
- ◆ 気持ち

・・・これだけ

## 木の駅pjが生むもの(例えば100トン)

- ◆ 林地残材回収、間伐促進
- ◆ 就業機会創出、林業機材販売促進
- ◆ コミュニティ再生、結いの復活
- ◆ 施業委託増進
- ◆ 町内店舗利用促進,町内GDP押し上げ効果・・・
  - ・1回転60万円、2回転120万円
- ◆ 地域愛、誇り、自治
- ◆ 3K(きつい、孤独、金にならない)から  
→新しい3K(気楽、絆、こずかいにはなる)へ  
・・・こんなに！

# 木の駅の成果

- 軽トラとチェーンソーがあれば誰でも参加できる  
→ 山に入るきっかけづくり、お荷物がお宝に！
- 「山の仲間づくり」  
→ 複数人なら出来る、安全・安心、楽しい、教え合える、  
モリ券でみんなでお酒飲むぞ！  
→ 境界確定、団地化(集約化)、道づくりもスムーズ
- 山がきれいになる！ → 森林整備、防災、水源涵養・・・
- 商店が元気になる！・・・大型店舗に逃がさない  
→ 商店は地域の宝だ！ 生命線だ！
- 自分たちのことは自分たちで決める、山も商店も  
→ 「自治」の再生



# 木の駅設営の極意

- ◆ 学校区を大切にす。中学校区を越えない範囲で  
顔の見える範囲、気楽に出荷距離
- ◆ 性善説を基本に  
「名札」と「志～材」、自己検尺&自己申告
- ◆ あまり効率を追わず、手間を惜しまず
- ◆ 主人公は地域住民、行政は黒子役に  
行政も「一員」の実行委員会を
- ◆ 環境志援(+@3000円)は分散自立型にシャブ中毒  
にしない(補助金依存体質にしない)
- ◆ 実行委員会で議論を尽くす。→フラットでオープンな参  
加型執行機関

# 広がる木の駅 (検索→「木の駅」)

地図 | 航空写真

日本海

日本

森

盛岡

山形

仙台

新潟

福島

宇都宮

水戸

甲府

東京

横浜

静岡

名古屋

津

福井

山岡

信州

雲南

奥出雲

丹波篠山

吉賀町

二ツ井

高鷲町

白鳥町

阿波

新城

さめうら

上石津

旭町

智頭町

笠岡

山口

広島

松山

高松

和歌山

徳島

高知

大分

福岡

佐賀

熊本

鹿児島

沖縄

地図データ ©2013 AutoNavi, Google, Kingway, SKplanet, ZENRIN 利用規約

106

- 笠岡(岐阜県)
- 智頭町(鳥取県)
- 旭町(愛知県)
- 上石津(岐阜県)
- さめうら(高知県)
- 新城(愛知県)
- 阿波(岡山県)
- 白鳥町(岐阜県)
- 高鷲町(岐阜県)
- 二ツ井(秋田県)
- 吉賀町(島根県)
- 丹波篠山(兵庫県)
- 奥出雲(島根県)
- 雲南(島根県)
- 信州(長野県)
- 山岡(岐阜県)
- 東栄町(愛知県)
- 秋葉道(愛知県)

# 全国の「木の駅」地域通貨



▲信州木の駅(長野県)



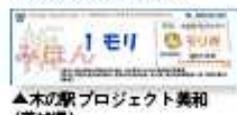
▲やまおか木の駅(岐阜県)



▲とうえい木の駅(愛知県)



▲秋葉山木の駅(愛知県)



▲木の駅プロジェクト美和(茨城県)



▲木の駅どうし(山梨県)



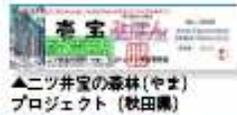
▲山の宝でもう一杯！プロジェクト(鳥取県)



▲「木の駅」INつばがわ(岐阜県)



▲よしの木の駅(奈良県)



▲ニツ井室の森林(やま)プロジェクト(秋田県)



▲古賀町木の駅(鳥取県)



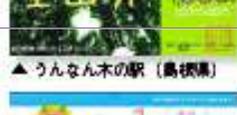
▲丹波篠山木の駅(兵庫県)



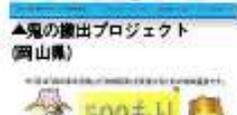
▲オロチの深山きこりプロジェクト(鳥取県)



▲うんなん木の駅(鳥取県)



▲鬼の横出プロジェクト(岡山県)



▲白鳥町木の駅(岐阜県)



▲木の駅わべりん(長野県)



▲ちもぢ木の駅(埼玉県)



▲豆蔵木の駅(岐阜県)



▲智頭木の宿場(鳥取県)



▲1 Mori



▲1 Mori



▲1 Mori



▲さめうら水源の森木の駅(高知県)



▲高野町木の駅(岐阜県)



▲那珂川町木の駅プロジェクトぼう(栃木県)



▲京丹後木の駅(京都府)

各地に広がる「木の駅」その数だけ、独自のモリ券(地域通貨)がある。みんなで作った名前、思いが込められたデザイン。みんなの「志」が、モリ券とともに地域を輝かせる。

※掲載は全国の木の駅の一部です

# 各地で多様に進化し順調に悩む木の駅

- ◆ 木の駅女子部、よそ者、地域おこし協力隊
- ◆ 山のお見合い、宵荷制度
- ◆ 都市木質化プロジェクト
- ◆ 薪の駅
- ◆ 薪作り・薪ストーブ普及・薪ボイラー導入
- ◆ ゆんたく場・もう一つの議会
- ◆ 地域政策提言
- ◆ 木の駅の未来・・・

# 薪民主化

矢作川水系森林ボランティア協議会代表  
丹羽 健司さん 60 <下>



煙突を横にも下向きにもできる不思議なストーブの普及が丹羽さんの次の目標だ（岐阜県恵那市の自宅で）

## 薪びと列伝

「素人山主たちの心を動かしたい」と2005年から森の健康診断を始めたが、「なかなか化学反応が起きない」と丹羽健司さんにはとどかなかった。転機は09年3月、都内で開かれた林業セミナーで訪れた。

森の健康を報告した丹羽さんに続いて、高知県の町のNPO法人代表の森・救援隊理事長の中嶋健造さん(52)が登場した。小規模の副業林家に「C材で晩酌を」と呼びかけ、放置された間伐材や、細かっただり曲がったりして建築材に使えないCランクの材を集めて発電プラント

やチップ工場などに売却し、代金は地域通貨で受け取るシステムを構築したという。丹羽さんは体が震えた。「山主たちの心をわしづかみにするモデルがあった」



翌月、丹羽さんは仲間とともに中嶋さんを訪ね、「土佐の森方式」の主たちが参加するハードルをもっと低くし、条件がそろわない所でも真似できるように「簡素化、標準化しよう」とも考え、森の健康マニュアル化の経験が役立つと思った。

同年12月には、岐阜県恵那市中野方で第一号の「木の駅」がスタートし、今では全国約40か所に広がった。

# 根付け「里山民主主義」

丹羽さんは先月、これまでの動きを振り返る「『木の駅』 軽トラ・チェーンソーで山も人もいきいき」（全国林業改良普及協会、税別1900円）を出版した。不思議なことに山主やボランティア、地域の商店主らがみんな笑顔で登場する。「木の駅の方針を決めるのは自分たち。自治は心地いいのです」。丹羽さんは「里山民主主義」と胸を張る。

本では「木の駅」から薪づくりが始まる必然性も示した。間伐材を出荷した山主に1斗6000円を地域通貨で支払う。チップ業者への売価は同3000円。逆ザヤを今は自治体の助成や寄付などで埋めているが、逆ザヤ解消の主役が薪なのだ。地域のエネルギー自立を考えるとシンプルな薪利用にたどりついた。



そこから丹羽さんの挑戦は新たな章に突入した。薪ストーブ、というより薪ストーブと煙突をつなぐ「松園式燃焼ユニット」の普及だ。



「木の駅」普及のてんまつを記した「木の駅 軽トラ・チェーンソーで山も人もいきいき」

金属製の箱の中に上向き、下向きの煙道が組み合わせてある。煙突を外へ逃していた高温の排煙を、この部分で放熱させるから、暖房効が高くて、煙突も熱くならない。しかも、排煙を押し出す力が強く、煙突を横や下向きにするのも自由という。

丹羽さんが2年前、恵那市岩村町の自宅店先に設置した同ユニットからは、ホームセンターで購入したアルミ製蛇腹を煙突代わりに、裏庭まで約18メートル下をはわらせている。店は同町の重要伝統的建造物群保存地区にあり、煙突を屋根に抜いたり、壁から出すことはできず、普通のストーブでは困難だったろう。

ユニットを考案したのは福岡県糸島市の鉄工所経営松園和正さん(41)。「日本一面白い薪ストーブ」と紹介され、じかに見に行くと気に入った。本体は15万円だが、煙突が自前で設置出来るから格段に安くなる。「誰もが気軽に薪ストーブを受入れる可能性が広がった」

松園さんは丹羽さんの勧めで、特許を出願中。技術の独占が目的ではない。各地の小さな鉄工所に呼び掛け、それぞれの地域で安価なユニットの製造と活用の仲間づくりを進める計画だ。「薪は暮らしを変え、地域を変える」。丹羽さんはそう確信している。（千田龍彦）おわり

\* 8月から織田信長の城を探访する新企画がスタートする予定です。

# 薪「新エネ」に 伐材の問

## ボイラー先進・欧州へ

NPO・森理事視察「木の駅」仲間カンパ

薪を使ったボイラーやストーブの利用を呼びかけ、県内や岐阜県などの山里でエネルギーの地産地消に取り組みNPO法人地域再生機構（岐阜市）の理事・森大頭さん（30）が21日、薪ボイラーの先進地・欧州への視察の旅に出発する。仲間のカンパで訪欧する森さんは、13日に名古屋市内であった壮行会で、「現地から足で稼いだ情報を発信します」と抱負を語った。（千田龍彦）

①薪ボイラー（中央）が軌道に乗った花白温泉  
②壮行会で訪欧への抱負を語る森さん



森さんは約3週間、オーストリア、ドイツ、スイスを回り、現地の薪ボイラーメーカーや、ボイラーを活用している施設や家庭、薪づくりの現場などを訪ねる。

訪欧は、森さんが木材市場では扱われない間伐材の活用を目指す木の駅プロジェクト

エクトに参加したことがきっかけ。当初は製紙用チップぐらいしか使えなかったが、最近はまだ高値で売買できる薪に注目。「給湯や暖房用燃料としてコスト、エネルギー効率両面で重油や電気の代わりになる可能性が高い」と森さん。その第一歩として2011年秋、岐阜県恵那市の花白温泉に薪ボイラーを導入した。だが、既設ボイラーの重油使用を節約できるはずが、逆に増える事態に。

「薪の乾燥が不十分で熱量が不足したり、お湯の配管に不慣れがあったりで当初は思惑がはずれた」と、同温泉取締役の丸山貴司さん（50）は語る。

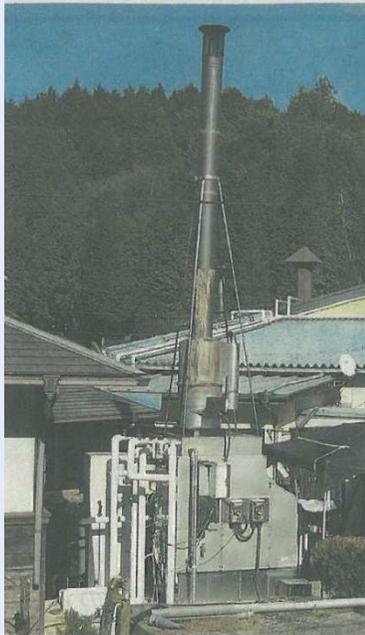
森さんたちは泊まり込みで原因を調査。ボイラーを断熱材で覆うなどの改善を重ね、ようやく昨年12月に重油だけよりコストを圧縮することができた。ただ、この経験が「私たちには本当に薪ボイラーを使う知恵があるのだろうか」との反

省をもたらしたという。「ボイラーをハードの知識だけでなく、薪の製造・供給を含めたソフト面でも理解することが必要だ」。森さんが欧州への学びの旅

を提案すると、各地の木の駅で薪づくりやボイラー購入を検討していた仲間たちからカンパの話が持ち上がり、それならと、1口3000円でカンパを公募して広く仲間を募った。

応募者は、森さんの「珍道中の報告メール」を受けられる、帰国報告会にも参加できる。現在、約190人から約330口計約100万円が寄せられている。

カンパはまだ募集中で、木の駅ポータルサイト（<http://kinoeki.org/>）から申し込むことが可能。



木の駅プロジェクト 間伐材活用などを目的に3年前、岐阜県恵那市で始まり、豊田市や東栄町など全国約30か所に広がった。間伐材を持ち込む地域拠点「木の駅」を設け、林業者が赤字にならないよう1口当たり6000円で購入。地域でお金が回るよう代金は地域通貨・モリ券で支払う。間伐材は転売するが、チップ用は1口3000円ほどで、赤字を補助金で埋め替えたため、薪としての販売を検討している。

を提案すると、各地の木の駅で薪づくりやボイラー購入を検討していた仲間たちからカンパの話が持ち上がり、それならと、1口3000円でカンパを公募して広く仲間を募った。応募者は、森さんの「珍道中の報告メール」を受けられる、帰国報告会にも参加できる。現在、約190人から約330口計約100万円が寄せられている。カンパはまだ募集中で、木の駅ポータルサイト（<http://kinoeki.org/>）から申し込むことが可能。

# 新米バイヤー 薪ボイラー 珍道中

ヨーロッパに  
行く！



薪ボイラーがエネルギーの地産地消  
や効率の向上に有効らしい。  
でも普及しはじめの国内では  
わからないことだらけ！  
ほんとにいいの？費用はどのなの？  
うちでも使える？



## 薪ボイラーバイヤー

NPO法人地域再生機構理事 森大顕(もりひろあき)  
1982年愛知県生まれ。京都大学農学部森林科学科卒業。  
在学中、NPO法人HCCグループにてグリーンツーリズム事業  
に関わり山村の地域づくりを志しました。大学卒業後は民間  
シンクタンクへ就職の後、豊森なりわい塾への参加をきっかけに、  
地域に根ざした地域づくりを目指し転職。現在は木の  
駅と薪ボイラーを地域で導入するお手伝いをしています。

「無数の薪ボイラーが当たり前」に運用  
されている欧州へ派遣してほしい！  
1人の熱い男の言葉に仲間が動く！

薪ボイラー先進国、  
ヨーロッパにその答えが!!

## 森と地域を元気にしたい方!! みんなの夢への第一歩にカンパを!!

旅は道連れ、世は情け!彼の森と地域を元気にする想いと欧州珍道中を粋に感じていただける皆様!  
森の仲間に加わってぜひ一肌脱いでやってください。新米バイヤー森大顕が、ありのままをレポートします!

新米バイヤー珍道中日記 配信中⇒kinoeki.org

### 参加方法

森へ集まる人たちのコミュニティ作り!!

- 1 プロジェクトに  
カンパ
- 2 壮行会(1/13)  
報告会(2/11)  
へ参加
- 3 薪ボイラーを  
予約

呼びかけ人：浅野智子、青沼紀人、後井美枝子、伊藤栄一、福業伸行、大淵和彦、小林健吾、駒宮博男、遠澤寿一、杉本知也、鈴木薫、高野雅夫、高橋啓、竹田純子、竹平政男、谷瀬康次、永橋隆介、丹羽健司、野村真博、原美智子、平野彰秀、村田元夫、山口信志、湯崎真梨子  
主 催：森の仲間たち実行委員会(世話人 丹羽健司)  
〒500-8570 岐阜市藤田南3丁目14-12 岐阜県シンクタンク庁舎3F きんぽNPOセンター内  
tel: 090-9916-1546 E-mail: maiki-boiler@kinoeki.org

### 推薦の言葉

#### 澁澤 寿一氏

3.11以降、地域の重要性が声高に叫ばれています。薪は一只古臭く思われるかもしれませんが、地域でエネルギーを自給するため、地域の経済的自立を促すことができ、手作り・手渡しで運ばれるため、地域の関係性を醸成することができます。地域で価格を決定できる小さな市場を生み出すため、自治を育むことができます。この地域の自治・自立へ繋がりが、さらには持続可能な地域を拓く薪ボイラーの普及に期待します。



## 薪ボイラーのココがスゴイ!!

- ・薪は、チェーンソーと軽トラと薪割り機があれば充分。大きい工場はいりません。
- ・手作りです。手渡しで納められ、雇用と人のつながりが生まれる素材です。
- ・森から薪ボイラーまで小さな地域の中で流通し、地域と森にお金を還せます。

### 「参加までの流れ+参加費」

#### 1 参加申し込み(平成25年2月11日まで)

木の駅ポータルサイトで  
(http://kinoeki.org/)  
木の駅ポータルサイトにアクセスし、申し込みフォームへ必要事項を記載し送信

#### FAX及びメールで

下記申し込み用紙を記入の上  
FAXかメールで送信

#### 2 カンパ・参加費用の お支払い(申し込み後1週間以内)

口座 十六銀行  
県民ふれあい会館出張所  
普通1083664  
森の仲間たち  
薪ボイラープロジェクト  
代表 森 大顕

#### 3 プロジェクトへ参加する

「新米薪ボイラーバイヤー  
訪欧体験日記」の更新情報  
をメールします。  
・壮行会・報告会や薪ボイ  
ラーのご予約に関する詳細  
はご案内を送付します。

#### 1 プロジェクトへカンパ

1口 3,000円

#### 2 壮行会・報告会へ参加

いずれも5,000円 ※飲食込(飲み放題)  
※参加費は当日でも支払い可 ※キャンセルでも返金しません

いただいたお金は、欧州訪問と情報発信にかかる費用に利用します。

#### 薪ボイラーの予約

100,000円 ※現地メーカー調査費用:50,000円 ※輸入手続・導入相談費用:50,000円 ※未購入の場合は50,000円返金します

ボイラー本体価格は別途かかります。

### 「スケジュール」

#### 壮行会

平成25年1月13日(日)17時より  
場所:名古屋市内 金山駅周辺

#### 欧州訪問

日時:平成25年1月21日～2月7日  
場所:ドイツ・オーストリア・スイスなどの薪ボイラーメーカー、薪ボイラーが運用  
されている施設・家園、薪製造の現場など。  
※訪問先は12月中旬に決定、日記で公開。

#### 報告会

日時:平成25年2月11日(祝)17時より  
場所:名古屋市内 金山駅周辺  
※壮行会・報告会の詳細は参加申込をいただいた方に後日お送りします。

## 木質バイオマスエネルギーの民主化プロセス



木の駅とは?



お話し自己診断



兄弟木の駅Prj



立上げの前に



教え合い広場

新着情報

レッテンバッハ村長講演会 開催地募集



ドイツの小さな村に日本の地域の未来が見える

メインメニュー

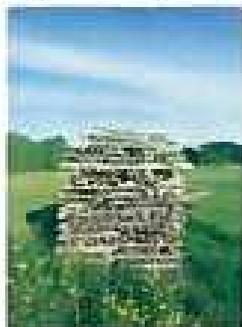
- ポータルサイト
- 木の駅prj概要
- 教え合い広場
- よくある質問

地域の木の駅

- 地図で見る
- [木の駅DB]リスト
  - ー 地域の背景
  - ー 全体運営
  - ー 地域経済
  - ー 骨格情報
- 地域ギャラリー

バイエルン州 レッテンバッハ村

# ドイツで一番幸せな村の村長講演会



2014年 1月 全国6地域にて開催

## 自治と自立の村の物語 - 地域が生き返り、若者が戻ってきた -

南ドイツに「天国のような村」だといわれる小さな村があります。しかし、この村は1970年代から若者の流出が進み、一時期は780名だった人口が580名まで減少し、地域の存続の危機に陥った経験を持つ村でもあります。そこから、現村長と仲間が立ち上がり、村民による自治を軸にして、「若者が住みやすく、環境に優しい村づくり」を目標に掲げ、自然エネルギー、地域通貨、製造業の起業支援、交流の拠点づくり、子育てなどの総合的な取り組みを自分たちの力で行いました。その結果、村には若者が戻り、人口がV字回復し、830名まで人口が増加し、世界中から注目されています。日本の多くの農山村は、過疎といわれて久しく、地域の存続の危機に瀕していますが、この自立を果たしたレッテンバッハ村の存在が、危機感を持ち地域を何とかしたいと懸命に取り組む方々にとって明るい未来になると考えます。今回、この村のフィッシャー村長を招聘し、レッテンバッハ村の取り組みを紹介する講演会を開催しますのでご参加ください。



レッテンバッハ村長

Wilhelm Fischer 氏

# フィッシャー村長列島縦断講演会



1/18 宮城県加美町

1/21 岐阜県郡上市

1/13 鳥取県鳥取市

1/14 広島県東広島市

1/11&1/22 長野県根羽村

1/15 熊本県熊本市



村長、副村長、  
議長が役場でお出迎え。



根羽村一番の人木、  
月瀬の大杉前で記念撮影

平成 26 年 1 月 11 日

## 長野県根羽村

ネバーギブアップ宣言から、10  
年。村民の自治と村の自立をドイ  
ツで一番幸福な村から学ぶ



森林組合製材所を訪問。  
熱心に話を聞く。



両村長が友好を誓い握手

ドイツで一番幸せな村の村長講演会

「ネバーギブアップ宣言から10年  
村民の自治と自立をドイツで一番幸福な村  
から学ぶ」

「自治と自立の村 根羽村が生み出した  
幸福が伝って来たドイツで一番幸福な村  
NEVER GIVE UP宣言から10年  
村民の自治と自立をドイツで一番幸福な村  
から学ぶ」



超満員の会場。

1000人の村に350人が詰め掛けた。

# 世代をつなぐ



**Start!**



森林には人工林と自然林がある。同じ種類の木が同じように生えていれば人工林。



森林の中にはいろいろな高さの木がある。でも、真っ暗な森林では高木しかないかも。

場所の測定と土じょう調査



中心木を決める。これが調査する場所のよりどころになる。



5m四方のわくをつくる。土じょうと植生の調査のためだ。



写真をとってから方位と角度を測る。

**やってみよう森の健康診断！ 人工林調査から間伐まで**



中心木と、平均直径木の高さははかる。

木の高さともものさがびったり重なって見えるように、自分の手の位置を調節しよう。つりざおの先が何cmのところにあるかな？

森の健康診断



こみぐあいを診断する

間伐



残す木を決める。



たおす方向を決める



たおす木にロープをかける



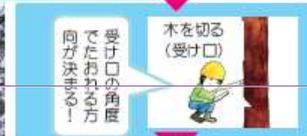
地面を落ち葉やかれ枝が何割ぐらいいおっているか見る。



全部はかったら、計算して平均を出す。その数値が一番近い木を平均直径木としてテープをまく。

半径 5.65mの円の中にある植えた木（スギ・ヒノキ）の太さをすべて測る。

空がぼっかりあいた！



受け口の角度でたおれる方向が決まる！

木を切る（受け口）

木を切る（追い口）



スコップは地面に垂直に。

落ち葉の層の下の、形がなくなった黒っぽい土がふしよくの土の層だよ。ふしよくの土の層の厚さを調べる。



植えた木の調査 (こみぐあい調査)

竹やかれた木があるか見る。

何種類の植物があるか調べる。数が分かったら写真をとる。

すべての種類の植物の葉をとってシートに乗せよう。



高さ 13m以上の木があったら太さを測る。

13mの高さのところを巻尺ではかるよ。



高さ 13m以上の植物（亜高木）高さ 13m未満の植物（低木と草）に分けて調査する。

高い木の下で、木や草が何割ぐらい地面をおおっているか調べる。

上から見てもらうつもりで考えよう。



自然に生えた草と木の調査 (植生調査)

# 楽しくて、ためになる！

# 森の健康診断

## ●森の健康診断って何？

人工林の状況を調査して研究に役立てたり、一般の人の関心を高めたりするために行います。

## ●どうして調査するの？

スギやヒノキの人工林がどうなっているのかわかるためです。すぐに手入れしなければ危ない森がどれだけあるのか、その森をどうすればよいのかを考えるためにやります。

## ●人工林って何？

人が植えたスギ、ヒノキ、カラマツなどの林のことです。

## ●人工林は悪いものなの？

人工林にもよく手入れされたものと、そうでないものがあります。放置された人工林は木がもやしのようになり、中には光がささず、草も生えず、暗く寒い森林になっています。

## 役割と使うもの



## 森の健康診断の手順

- 1 場所の測定と土じょうの調査
- 2 自然に生えた木と草の調査
- 3 植えた木の調査
- 4 森の健康診断
- 5 問 伐



## 調査が終わったら

- 記録を自分の調査手帳に書き写し、リーダーの話を聞きます。
- 記録を提出用紙に書き写し、データとして提出します。
- グッズがなくなっていないか確認して、バッグに入れて返します。
- 感じたことを友だちや家族に話して、人工林の問題を多くの人に伝えましょう。



## これが調査グッズだ！



## ●日本の木を使わない日本人

気候が湿かく雨の多い日本では、木の生長がよく、年々太くなります。つまり日本では森林にある生きた木材が日々増えていっています。けれどもその増えた量の2割ほどしか使っていません。

一方で、使う量は大変多く、日本で使う木材の8割を外国から輸入しています。いま地球上では1秒間にサッカー場1面分の森が消えています。その木の多くが日本に輸出されています。日本の木をもっと使いましょう。

## ●木を切るの悪いことではない

雑木林にあるどんぐりの木(ナラ、カシ、クヌギ、アベマキなど)は、若いうちに切れば次の年には新しい枝が生えて新しい幹ができて、いつまでも「再生」します。むかしの人はそれを知っていて、適切な時期に切って利用していました。人間はそこからエネルギーを得たり道具や家を作ったりすることができたのです。

木や草や竹といった植物は、上手に利用すれば絶えることなく、たくさん資源を私たちに提供してくれます。

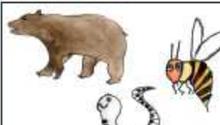
## ●日本では木が増えている

昭和35年前後の燃料革命の頃まで、里のまわりの山はまきや炭などの燃料をとる場所として利用されていました。当時の写真を見ると、日本の山ではどこでも「丸坊主」といってもいいくらい木が少ないのです。愛知県瀬戸市では、窯業の燃料を山から得たり土壌の条件が悪かったためにはげ山が広がっていました。今のような緑いっぱい山にするために、大変な努力をしたのです。

工場や住宅地の開発がされた場所では確かに森林が破壊されました。でも、今、過疎になった山里では農地が見捨てられ、そこに木が生えてきます。かつて田んぼだった場所にスギやヒノキが植えられていることも多くあります。このように見ると、今の日本では森林は増えています。

## 安全に楽しく活動するために

### 危険な動物



- マムシ、ハチ、毒毛虫、ムカデ
- サル、イノシシ、クマ

### 危険な状況



- 倒れかかった木
- 雷、大雨
- 電線

### 森でのルール

- リーダーの指示にしたがおう。
- 一人で行動しない。
- 勝手に植物やきのこを取って持ち帰ったり、動物をいじめたりしない。
- 山で働く人に会ったらあいさつしよう。

### 健康

- 体調が悪いときやけがをしたときは、すぐにリーダーに伝えよう。

安全な服装で…!



楽しくて、ためになる 子どもの森の健康診断(事前学習リーフレット)  
2008.3.22 Copyright / 矢野協 無断複製を禁ず  
編集 / 清藤泉津子 イラスト / 丹羽あずみ  
このリーフレットは、(社)国土緑化推進機構 平成19年度「緑と水の森林基金」の助成を受けて作成しています。

企画・製作 / 矢野川水蒸森林ボランティア協議会  
住所 / 名古屋市千代田区千代田 1-44-7 嶋田ビル 203  
TEL / 090-4180-9055 FAX / 052-581-8161 〒450-0001  
E-MAIL / yamorikeyu@yahoo.co.jp  
URL / http://oaga.freetl.com/yamorikeyu/

環境と暮らし

# 「森の健康診断」小学生も

## 光差さぬ放置人工林を元気に



ヒノキの太さを巻き尺で測る小学生たち。岐阜県恵那市で

森林の現況を、多くの市民が手分けして科学的に調査する「森の健康診断」。七年前に愛知県・矢作川流域で始まり、全国に広まった手法だ。放置人工林の荒廃ぶりをつまびらかにし、行政を動かした。近年は子ども向けプログラムが小学校などで実施されている。「愉<sup>たの</sup>しんで少しためになる」が合言葉の調査に、記者も同行した。  
(吉田瑠里)

十月半ば、岐阜県恵那市の長島小学校の五年生三十人が、標高約七百メートルにある学校林で「森の健康診断」をした。山中にはヒノキの人工林。矢作川水系森林ボランティア協議会の稲垣久義副代表(左)は、事前に「不健康な森は木が混んでいて光が差さず、下に草木が生えない。だから雨が直接当たり、土壌が流出してしまう」と説明した。子どもたちは五十六人の班に分かれて、調査地点へ。まず中心とする木を手をつないで囲む。協議会代表の丹羽健司さん(左)はこの辺の木が電



典型的なヒノキの放置人工林。下草が無く細根が露出。外見は森だが「緑の砂漠」と呼ばれる。愛知県豊田市で

## 混み具合調べて間伐

木を切れば草が生えらるる」と秋山樹香さん。春日井善久教頭(左)は「山の中に住んでいるのに、子どもたちは森に入ることがあまりない。自分で診断して意味が分かると木を切り、匂いや倒れる音を感じる。この体験が感動を生み出すと思う」。この学校の健康診断は四年目を迎えた。

森の健康診断は二〇〇五年、愛知県豊田市の矢作川流域で始まった。〇〇年の東海豪雨の際、上流の人工林で土砂崩れが起きたのを機に、間伐遅れの放置林が目が向いた。森林ボランティアグループが結集し、協議会が発足した。流域で緊急に間伐が必要な放置林がどれだけあるのか、市民と調べることで行政や山主を啓発しようとした。研究者も意気投合した。流域の健康診断は年一回続き、今年までに延べ約千九百人が参加。愛知、岐阜、長野各県の流域人工林八万株を五百地点以上で調べた。研究者グループ共同代表で東京大生態水文学研究所(愛知県瀬戸市)所長の蔵治光一郎准教授(右)は「現在の山の状況を知る調査や台帳はなかった。健康診断で流域の人工林が約七割過密で不健康、防災上望ましくない状態と分かった」と評価する。

豊田市は〇七年、この診断結果を基に森づくり条例を制定。二十年間の間伐で、過密な人工林をゼロにする構想をまとめた。同市の原田裕保森林担当専門監(左)は「森林健康で植えた時の情報は分かるが、現況は分からなかった。森の健康診断の結果は実感に合う値だった」と振り返る。

全国どこでもできる調査を目指し、健康診断の調査道具はほとんど百元ショップでそろえる。マニュアル付きの本も市販されている。矢作川水系森林ボランティア協議会は〇九年から講師を派遣する出前事業を始め、北海道から九州まで二十四都道府県で実施した。子ども用プログラムは説明の言葉は簡単だが、調査内容は大人と一緒。小学三年生以上が対象。代表の丹羽さんは「健康診断で森を具体的に自分でつかみ、どれくらい間伐しなければいけないか分かる。ただ木を切る体験ではなく、森に光が差し込む大切さを五感で知ってほしい」と話す。

# 子ども木の駅



そうじゃった、何にもないと思っていた村には  
何でもあった。

ないものはこの手で作った、  
山からいただいできたけえ。

ひとりでできんことは仲間であすけあってきた。

感謝・喜び・誇り

わしらは、山の恵みと人の絆で生きてきた。

「美しい村などはじめからあったわけではない。  
美しく暮らそうという村人がいて、  
美しい村になるのである」

柳田國男

